

令和4年度 第1回安曇野市水環境審議会 次 第

日時：令和4年4月27日（水）午後2時00分～

場所：安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室

■委嘱書交付

1 開 会

2 あいさつ

（自己紹介）

3 報告事項

（1）令和3年度事業実績について 資料1

4 協議事項

（1）令和4年度事業計画について 資料2

5 その他

6 閉 会

令和3年度 事業実績について(安曇野市水環境基本・行動計画 施策推進状況の点検・評価シート)

資料1

点検・評価年度 令和 3 年度 (年度中間時 **年度末時**)

【点検・評価シート】

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率: % ⇒ 評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率: %)	評価理由	R3年度	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				令和3年度	次年度への 展望・課題など
1 水を貯める・育てる施策	1-1	水田機能維持・地力増進推進事業	R3年度に130万m ³ /年(面積:97ha程度)の涵養	130万m ³ /年(97ha)の涵養	—	—	水利権上の整理及び関係機関の同意を得た。 →R2年度から「水田機能維持・地力増進推進事業」として本計画に掲載・実施	水田機能維持・地力増進推進事業 78.5ha 95.3万m ³ /年の涵養	水田機能維持・地力増進推進事業 92.8ha 102.1万m ³ /年の涵養	100%	△ (79%)	・130万m ³ /年の目標に対し102.1万m ³ /年 ・農政課と連携して営農効果等をPRL、引き続き取り組んでいく。	
	1-2	転作田湛水事業	R3年度に1万m ³ /年の涵養	—	—	当面は行わない(判断)。 ※上記、「水田機能維持・地力増進推進事業」の対象は当面は麦刈り後の農地のみとする。	—	—	—	100%	—	・令和4年度からの新たな行動計画では、施策1-7「地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行」の中で、環境用水施設(親水公園、ピオトープ等)の検討等を進めていく。	
	1-3	新規需要米等転作推進事業	R3年度に飼料米の作付面積127ha	飼料米の作付面積127ha	作付面積 112.8ha (H28年:100.3ha) 前年比 12.5ha増 地下水涵養量 279万m ³ /年 (H28年度:248万m ³ /年)	作付面積 113.1ha 前年比 0.3ha増 地下水涵養量 280万m ³ /年	作付面積 116.0ha 前年比 2.9ha増 地下水涵養量 287万m ³ /年	作付面積 107.7ha 地下水涵養量 266.6万m ³ /年 前年比 8.3ha減	作付面積 132.2ha 地下水涵養量 327万m ³ /年 前年比 24.5ha増 H28年度と比較して実施面積は31.9haの増、涵養量は79万m ³ /年の増	100%	◎ (118%)	・R3年度目標値127haに対しての進捗率は118.1%(31.9/27×100) ※計画策定前(H28以前)の作付け面積100.3haを除いて算出 ・農政課と連携して、面積拡大を図っていく。	
	1-4	水田湛水期間延長事業	R3年度に20万m ³ /年の涵養	—	—	—	当面は行わない(判断)。	—	—	—	100%	—	・令和4年度からの新たな行動計画では、施策1-7「地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行」の中で、環境用水施設(親水公園、ピオトープ等)の検討等を進めていく。
	1-5	涵養事業の情報発信	期間中1回/月以上情報発信	—	—	—	—	—	—	—	100%	—	・涵養事業に関して、情報発信を行っていく。 ・水結制度に係る施策も展開していく。
	1-6	地下水水位・湧水状況調査と涵養量の把握・公表	取組年度内に1回以上調査	1回/年以上調査(既往調査の継続実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水水位・湧水量調査の継続実施 ⇒地下水(井水)(9箇所)・わさび田(2箇所)水位、湧水量(2箇所)の測定実施 ・「安曇野ウォータープラン・サポート制度」検討・骨子作成 ・6/28京都市視察 安曇野版「災害用井戸指定制度(仮称)」創設の検討・整理 ・WPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度創設 ⇒制度運用に当たって、水質検査・水位測定専門家と連携協定締結 ⇒9/7応募開始(観測井の地域バリエーションを考慮し、観測井から比較的距離が離れている地域を優先して応募文書を通知) ⇒制度運用 ⇒4件(市内水位・水質測定箇所各4件増加) ⇒サポーターから毎月報告される水位測定結果の整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水水位・湧水量調査の継続実施 ⇒地下水(井水)(10箇所)、湧水(2箇所)、わさび田(2箇所)の水位測定実施 ・6/28京都市視察 安曇野版「災害用井戸指定制度(仮称)」創設の検討・整理 ・WPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度創設 ⇒制度運用に当たって、水質検査・水位測定専門家と連携協定締結 ⇒9/7応募開始(観測井の地域バリエーションを考慮し、観測井から比較的距離が離れている地域を優先して応募文書を通知) ⇒制度運用 ⇒4件(市内水位・水質測定箇所各4件増加) ⇒サポーターから毎月報告される水位測定結果の整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水水位・湧水量調査の継続実施 ⇒地下水(10箇所)、湧水(2箇所)、わさび田(2箇所)の水位測定実施 ・WPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度創設 ⇒制度運用に当たって、水質検査・水位測定専門家と連携協定締結 ⇒9/7応募開始(観測井の地域バリエーションを考慮し、観測井から比較的距離が離れている地域を優先して応募文書を通知) ⇒制度運用 ⇒4件(市内水位・水質測定箇所各4件増加) ⇒サポーターから毎月報告される水位測定結果の整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水水位・湧水量調査の継続実施 ⇒地下水(10箇所)、湧水(2箇所)、わさび田(2箇所)の水位測定実施 ・WPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度創設 ⇒制度運用に当たって、水質検査・水位測定専門家と連携協定締結 ⇒9/7応募開始(観測井の地域バリエーションを考慮し、観測井から比較的距離が離れている地域を優先して応募文書を通知) ⇒制度運用 ⇒4件(市内水位・水質測定箇所各4件増加) ⇒サポーターから毎月報告される水位測定結果の整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水水位・湧水量調査の継続実施 ⇒地下水(10箇所)、湧水(2箇所)、わさび田(2箇所)の水位測定実施 ・WPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度創設 ⇒制度運用に当たって、水質検査・水位測定専門家と連携協定締結 ⇒9/7応募開始(観測井の地域バリエーションを考慮し、観測井から比較的距離が離れている地域を優先して応募文書を通知) ⇒制度運用 ⇒4件(市内水位・水質測定箇所各4件増加) ⇒サポーターから毎月報告される水位測定結果の整理・分析 	100%	○ (100%)	・年度目標達成 ・継続実施	
				<ul style="list-style-type: none"> ・「わさび田湧水量測定地点の拡充(補助金)」 	<ul style="list-style-type: none"> ・WPサポート制度「わさび田湧水量測定地点の拡充(補助金)」制度創設に向け、「わさび田の湧水量測定」の簡単な調査方法について国や専門家にアドバイスを求めより良い方法について検討、整理を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・WPサポート制度「事業所井戸・水質水位調査結果の共有・公表」方法の検討・整理について、採択されたH30年度「先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)」での実施を要望→報告内容を整理・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所井戸・水質水位調査結果の共有・公表方法について、国と意見交換を行った。 	—	—	—	—	—	

施策体系	施策番号	施策名称	目標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)					年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
1 水を貯める・育てる施策	1-7	定期的な実態調査(一斉測水等)の実施	R2年度に調査実施	-	<p>○アルプス地域地下水保全対策協議会へ構成市町村が連携した松本盆地の定期的な実態調査の実施を要請</p> <p>・定期的に松本盆地の実態調査(一斉測水等)を実施し経年変化をモニタリングする必要性を共有</p> <p>・実施時期を揃えた、各市町村が連携した実態調査の実施を提案</p> <p>・各市町村が実施している地下水水位・湧水量調査を活用した実態調査の実施を提案</p> <p>⇒実現に向け協議会で構成市町村を対象にアンケート調査を実施</p> <p>○第3回担当者(2月)会議で以下について示された</p> <p>・地下水の保全及び涵養に関する広域的ルール(案)</p> <p>・各市町村が実施する地下水調査結果の共有方法の検討</p> <p>・各市町村が連携した一斉測水調査の実施方法の検討</p> <p>○協議会を各市町村が実施している地下水調査(水質・水位)の情報共有の場とすることを提案</p> <p>⇒実施することに決定</p> <p style="text-align: right;">新規</p>	<p>・アルプス地域地下水保全対策協議会へ構成自治体が連携した松本盆地の定期的な実態調査の実施を前年度に引き続き要請</p> <p>⇒7/2開催の協議会に於いて、一斉測水を構成市町村で連携し、今後実施する方向で調整する協議会方針が決定</p> <p>⇒2/8開催の協議会に於いて、R2年度安曇野市が実施する一斉測水に対する協力を構成自治体へ要請。R1年度に具体的検討を行うことになった。</p> <p style="text-align: right;">新規</p>	<p>・R2年度一斉測水及び地下水賦存量調査の実施準備</p> <p>⇒実施方法の検討・整理(アルプス地域地下水保全対策協議会・信州大学と連携)</p> <p>⇒アルプス地域地下水保全対策協議会に協力を要請し共同実施方法の検討・整理を行った。</p> <p>⇒予算措置</p> <p>・アルプス地域地下水保全対策協議会で10年毎(次回R7年度)に一斉測水を実施することが決定。</p>	<p>・地下水一斉測水調査の実施</p> <p>※協議の結果、今回は安曇野市単独で実施することとした</p> <p>信州大学理学部の学生に調査に協力していただいた</p> <p>・一斉測水調査の結果から賦存量を算出したところ、豊水期は54.579億m³、渇水期は53.608億m³となった。</p> <p>平成27年度の調査結果と比較すると、豊水期は0.034億m³増加したものの、渇水期は0.142億m³減少した。豊水期は長梅雨、渇水期は秋以降の少雨・少積雪の影響をそれぞれ受けたためと考えられる。</p>	100%	△ (33%)	<p>・アルプス地域地下水保全対策協議会として実施できず、安曇野市内の調査実施率32.9%(23/70×100)</p>	<p>・一斉測水のほか、調査全般に関しては、アルプス地域地下水保全対策協議会において連携・情報共有を図っていく。</p>	
	1-8	地下水保全条例の運用	継続(定期的な開催は年に最大6回)	継続	<p>・地下水採取審査委員会の開催</p> <p>⇒2回(審査件数1件)</p> <p>⇒第1回:協議案件①警戒値の設定について</p> <p>⇒第2回:市内の地下水水位について</p> <p>・井戸の届出啓発(1回:広報あづみの5月17日発行号掲載)</p> <p>・井戸届出提出依頼文書の通知(150件(うち、88件は下水道の検満メーター設置者情報より抽出した対象者で今回が2回目))</p> <p>・採取届(採取量報告)提出依頼文書通知(287件)</p> <p>・新規井戸の届出受理 7件</p> <p>事前協議無し 6件</p> <p>事前協議有り 1件</p> <p>・既往井戸の届出受理(16件)</p> <p>・採取量報告書收受(227件)</p> <p>・H28年度採取量の整理・分析</p>	<p>・地下水採取審査委員会の開催</p> <p>⇒1回(審査件数1件)</p> <p>・井戸の届出啓発(1回:広報あづみの4月18日発行号掲載)</p> <p>・既往井戸届出提出依頼文書の通知(117件)</p> <p>・採取届(採取量報告)提出依頼文書通知(322件)</p> <p>・新規井戸の届出受理 9件</p> <p>事前協議無し 7件</p> <p>事前協議有り 2件(内1件はH29年度協議)</p> <p>・既往井戸の届出受理(7件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・採取量報告書收受(312件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・前年度採取量の整理・分析</p>	<p>・地下水採取審査委員会の開催</p> <p>⇒0回(審査件数0件)</p> <p>・既往井戸届出提出依頼文書の通知(65件)</p> <p>・採取届(採取量報告)提出依頼文書通知(321件)</p> <p>・新規井戸の届出受理 1件</p> <p>事前協議無し 1件</p> <p>事前協議有り 0件</p> <p>・既往井戸の届出受理(45件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・採取量報告書收受(316件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・前年度採取量の整理・分析</p>	<p>・地下水採取審査委員会の開催</p> <p>⇒2回(審査件数2件)</p> <p>・既往井戸届出提出依頼文書の通知(65件)</p> <p>・採取届(採取量報告)提出依頼文書通知(398件)</p> <p>・新規井戸の届出受理 10件</p> <p>事前協議無し 9件</p> <p>事前協議有り 1件</p> <p>・既往井戸の届出受理(1件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・採取量報告書收受(376件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・前年度採取量の整理・分析</p>	<p>・地下水採取審査委員会の開催</p> <p>⇒2回(審査件数2件)</p> <p>・既往井戸届出提出依頼文書の通知(65件)</p> <p>・採取届(採取量報告)提出依頼文書通知(303件)</p> <p>・新規井戸の届出受理 8件</p> <p>事前協議無し 6件</p> <p>事前協議有り 2件(うち1件はR2年度協議)</p> <p>・既往井戸の届出受理(1件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・採取量報告書收受(294件)</p> <p>※井戸本数</p> <p>・前年度採取量の整理・分析</p>	100%	○ (100%)	<p>・年度目標達成</p>	<p>・継続実施</p> <p>・継続実施</p> <p>・継続実施</p> <p>・継続実施</p> <p>・適正運用</p>
			地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行	R2年度に実装可能な施策を実施	地下水涵養手法に資する新たな手法等の調査・研究	<p>・H30年度先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)に応募</p> <p>・探択・国と共同による市水環境基本計画の実施</p> <p>・11/2安曇野市に於いて、先進的な流域マネジメントに関するモデル調査事業のアドバイザー会議開催・視察受入れ</p> <p>・10/29(第2回)・3/25(第3回)開催の安曇野市水資源対策協議会に内閣官房水循環政策本部事務局出席(モデル調査事業概要・成果報告)</p> <p style="text-align: right;">新規</p>							

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)					年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
1 水を貯める・育てる施策	1-9	地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行	R2年度以降に実装可能な施策を実施	地下水涵養手法に資する新たな手法等の調査・研究	<p>【取組1】安曇野産米の販路拡充 ・農政課が進めている日本酒を海外に売り込む「日本酒海外販売戦略」との連携の在り方を検討 ⇒農政課ヒアリング ・県外企業A社とマッチングした安曇野産米と水を使用した商品(「発芽玄米」「お粥」「青汁」等)開発の可能性調査・検討 ⇒農政課ヒアリング ＜結論＞実現性が低いことから候補から外す</p> <p>【取組2】雨水浸透施設の設置 ・事業所を対象とした雨水施設設置の可能性調査及び普及の在り方検討 ⇒市内事業所にヒアリングを実施 ・雨水の浸透方法の検討 ⇒先進地(福岡市)事例収集 ＜結論＞涵養施策の1つとして継続検討</p> <p>【取組3】揚水事業所の涵養・再利用促進 ○神奈川県秦野市の事例収集(電話・メール等) ・不二家秦野工場「地下水注入事業」研究・検討 ○熊本県熊本市の事例収集 ・事業所が取り組む地下水涵養手法について情報収集 ○国交省へ地下水マネジメント検討の一環で当市をモデルとした地下水人工涵養の社会実装の実施を要望 ⇒具体的には工場等で使用した洗浄・冷却用等の水を水田を利用して地下へ還す手法の可能性調査等の実施を検討 ＜結論＞涵養施策の1つとして継続検討</p> <p>・アンケート結果をもとに市内地下水採取事業所の取組についてヒアリング⇒ヒアリング6社</p> <p>【取組4】森林保全 ○県外企業B社森林活動との連携検討 ⇒県外企業B社ヒアリング ○「森林環境税」の活用検討 ⇒環境省・内閣官房から情報収集 ＜結論＞実現性が低いことから当面は候補から外すが、森林涵養の将来的な実施は引き続き検討を行う</p> <p>【取組5】人工涵養池 ・可能性調査・検討 ＜結論＞実現性が低いことから候補から外す</p>	<p>・「流域水循環-地下水流動モデル」の構築に係る調査研究(筑波大学委託事業)実施</p> <p>・R2年度環境研究総合推進費(環境省)に応募した(国研)産業技術総合研究所に想定研究フィールドの立場から協力。 →一次審査(書面評価)で不採択。</p> <p>・WPサポート制度「非灌漑期雨水水田田んぼダム事業」試行調査実施、結果の検討・整理 ・新たな人為的地下水涵養施策の検討・整理(冬期湛水、あづみ野排水路の有効活用等) ・アルプス地域地下水保全対策協議会に於いて水田面積(涵養可能性)調査実施・整理 →2年毎実施予定</p>	<p>・一斉測水調査に信州大学榑原研究室に協力していただいた。学生の研究成果が出るのはR3年度末であるため、R3年度末に発表の機会を持てるよう信大の榑原先生に打診し、了承された</p> <p>・市内関係課にヒアリングし、市の事務事業における人為的な地下水涵養及び節水施策を把握した。</p> <p>・黒沢川上流に治水施設「調節池」が建設された後、黒沢川とあづみの排水路が接続される見込みである。接続後、黒沢川表流水があづみの排水路に流入されることにより、どの程度地下水涵養量が増えるか試算した。その結果、417万m³/年があづみの排水路の新たな地下水涵養効果と見なされた。</p> <p>・田んぼダムの減水深データ解析 ⇒4圃場で合計6,253m³の涵養となった。 ⇒排水を塞ぐだけで良いため、少ない労力で実施可能 ・聞き取りをもとに今後の普及について検討した。</p> <p>・筑波大学辻村教授の研究室に所属する学生(修士)の研究により、山体から直接地下水に流入する水の存在とその割合のほか、犀川右岸の地下水の特徴が明らかとなった。</p>	<p>・黒沢川上流に治水施設「調節池」が建設された後、黒沢川とあづみ野広域排水路が接続される見込みである。接続後、黒沢川表流水があづみ野広域排水路に流入することによって、どの程度地下水涵養量が増えるか、令和2年度に試算を行った。このときには、417万m³/年があづみ野広域排水路の新たな地下水涵養効果と見なされた。この令和2年度の試算は令和3年2月の調査日のデータのみをもって試算を行ったものであるため、より実態に近い試算を行うため、令和3年度は4月から毎月黒沢川流末の流量調査を実施した。その結果、475万m³/年があづみ野広域排水路の地下水涵養効果と試算された。</p>	100%	○ (100%)	<p>・黒沢川があづみの排水路に接続した場合の地下水涵養効果について、令和2年度(令和3年2月)の試算結果に加え、令和3年度において再度流量調査から涵養量に係る試算を行い、より実態に近い涵養効果を把握することができた。</p>	<p>・グリーンインフラの視点から市内河川又は小河川を利用した地下水涵養に資する環境用水施設(親水公園、ビオトープ等)の検討を進めていく。 ・黒沢川とあづみ野排水路の接続等に関して、国や県と調整を行っていく。</p>	

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)					年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
1 水を貯める・育てる施策	1-9	地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行	R2年度に実装可能な施策を実施	地下水涵養手法に資する新たな手法等の調査・研究	<p>【取組6】黒沢洞合自然公園内の涵養(市管理) ⇒市都市計画課ヒアリング、可能性調査・検討 ＜結論＞実現性が低いことから候補から外す</p> <p>【取組7】あづみ野(広域)排水路を活用した涵養 ○堀廻堰からあづみ野(広域)排水路に流入させ涵養を行う方法を検討 ⇒安曇野地区広域排水事業所等にヒアリングを実施 ○あづみの(広域)排水路を雪置き場として活用し雪解けによる涵養を行う方法を検討 ⇒安曇野地区広域排水事業所等にヒアリングを実施 ＜結論＞涵養施策の1つとして継続検討</p> <p>【取組8】上水道余剰水を利用した涵養 ○人工涵養の水源として上水道の余剰を有効活用できないか研究・検討 ⇒上水道課ヒアリング ＜結論＞実現性が低いことから当面は候補から外す</p> <p>【取組9】ピオトープ設置・蛍保護の取組と連動 ○市内のピオトープ設置や蛍保護の取組状況の把握と連動した啓発方法の検討 ⇒モデルケースとなる取り組みを調査・ヒアリングする。</p> <p>【取組10】国営アルプスあづみの公園の古田・棚田の水張期間の延長 ○国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)の里山文化ゾーンの古田・棚田の水張期間の延長の可能性調査 ⇒国営公園管理者長野国道事務所公園課にヒアリングを実施</p> <p>【取組11】冬期間の田んぼダム ○田んぼを乾かす必要がある期間以外の非灌漑期間(冬期間)に田んぼの水抜き口を止め雨水を田んぼに貯めて地下に水を浸透させる取組の可能性調査検討 ⇒試行調査実施(10月～3月)・結果整理・分析 新規</p> <p>⇒「安曇野ウォータープラン・サポート制度」検討・骨子作成 「雨水貯留 水田ダム・浸透推進の田畑耕起(補助金)」 ＜結論＞涵養施策の1つとして継続検討 新規</p> <p>【取組12】雨水を利用した涵養・節水の新技術・手法の開発 ⇒先進地(福岡市)事例収集 ⇒秦野市事例収集 ⇒手法の検討・整理 ＜結論＞涵養施策の1つとして継続検討</p>								

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					令和3年度
					<p>【取組13】1-1-1-2,1-4に変わる新しい水田涵養施策の検討 ⇒国(環境省)事業の活用及び研究体制整備検討 ＜結論＞涵養施策の1つとして継続検討</p> <p>・国の事業(環境政策貢献型の競争的研究資金「環境研究総合推進費(環境省)」)の活用及び研究体制整備検討 新規</p>	<p>・地下水涵養等(水利権に頼らない新たな涵養・節水・再利用方法)に関する調査・研究体制構築、研究内容決定 →筑波大学・産業技術総合研究所・大阪府立大学・阪南大学の文理融合チームで研究体制を構築。安曇野市視察後、国の競争的研究資金獲得のため研究議論を重ねた。 新規</p> <p>・H31年度環境研究総合推進費(環境省事業)応募 →不採択 新規</p>							
2 水を上手に使う施策	2-1	節水に関する普及啓発ツールの制作・実施	広報活動を1回/年以上	・広報活動を1回/年以上	<p>○(株)バスクリンマッチング事業(ゼロ予算) ⇒入浴・健康視点の節水普及啓発チラシを(株)バスクリンが自己資金で製作・印刷し当市へ提供(4,500部)(データ提供) ★制作にアクアスフィア水教育研究所橋本所長・(株)八千代エンジニアリングが協力 ⇒地下水講座/子ども向け体験講座/環境フェアの各会場で製作したチラシを配布(約300部) 子ども向け体験講座で、橋本所長の「プロジェクトWET」を活用した水体験プログラム、(株)バスクリンのお風呂博士が教えるお風呂講座を通じ親子に節水の大切さを伝えた(参加者約100名) ○先進地(福岡市・熊本市)事例収集・整理 新規</p> <p>「節水チラシ制作」(ver.風呂) 新規</p> <p>・住宅用 雨水貯留施設(補助金)4基 ・市内大型ホームセンター3店舗の協力を得て「住宅用雨水貯留施設設置補助金」チラシの店内展示・配布を実施 新規</p> <p>市民1人1日当たりの生活用の水使用量の把握 ⇒H28:244.09ℓ/日 H27:245.67ℓ/日 新規</p>	<p>・企業と連携した「節水チラシ(H30はトイレ版)」の検討、整理、制作 TOTOTO(株)マッチング事業(ゼロ予算) ⇒「トイレ」視点の節水普及啓発チラシ(安曇野版)をTOTOTO(株)が自社資金で製作・印刷し当市へ提供(5,000部印刷・郵送)・(データ提供) 新規</p> <p>・企業と連携した「節水普及活動」【1回】 TOTOTO(株)マッチング事業(ゼロ予算) ⇒8/31 豊科南中学校2学年(生徒数116名)を対象とした第2回出前授業で、TOTOTO(株)が実験キットを用いた節水に関する出前授業を無償で実施 新規</p> <p>○節水普及啓発チラシの配布[配布数 約340部] ・前年度制作した(株)バスクリンマッチング事業「節水チラシ(H29お風呂版)」配布 ・本年度新たに制作したTOTOTO(株)マッチング事業「節水チラシ(H30トイレ版)」配布【8回】 ⇒出前授業(3回)・市民向け出前講座(1回)・企業向け出前講座(1回)で配布 ⇒8/15自然観察会(1回)、10/6-7環境フェア・水イベント(2回)で配布 新規</p> <p>・住宅用 雨水貯留施設(補助金)10基 ・広報あづみの(2019.9.18通常版)に特集記事掲載 ・様式(地下水採取報告書)を改正、「節水取組」の記入欄を設けた。 ・アルプス地域地下水保全対策協議会に於いて水道利用調査(市民1人1日当たりの生活用の水使用量の把握等)実施・整理 →2年毎実施予定</p>	<p>・機会を捉えた節水チラシ(ver.風呂・トイレ)の配布 ・住宅用 雨水貯留施設(補助金)10基 ・広報あづみの(2019.9.18通常版)に特集記事掲載 ・様式(地下水採取報告書)を改正、「節水取組」の記入欄を設けた。 ・アルプス地域地下水保全対策協議会に於いて水道利用調査(市民1人1日当たりの生活用の水使用量の把握等)実施・整理 →2年毎実施予定</p>	<p>・出前講座(11/25)及び第2回環カフェ(12/4)において参加者に節水チラシ(ver.風呂・トイレ)を配布配布 ・住宅用 雨水貯留施設(補助金)事業の実施・運用(11件) ・市HP、広報紙等において、住宅用雨水貯留施設の広報を実施</p> <p>・住宅用 雨水貯留施設(補助金)事業の実施・運用(13件)</p>	100%	○ (100%)	・広報活動を市ホームページ等で実施	・継続実施 ・令和4年度からの新たな行動計画では、施策2-1「節水に関する普及啓発」の中で広報活動等に取り組んでいく。	
	2-2	老朽管の布設替えによる揚水の適正化	市内全域の漏水調査を行うとともに漏水箇所の修理及び老朽管の布設替えにより有収率の向上を図り、R8年度までに有収率85.4%の達成を目指す(H27年度実績:77.9%)(新水道ビジョン反映)	<p>・布設替え検討の継続的な推進 ・水道水源の揚水量の経年変化の把握 ・水収支評価への反映</p> <p>・老朽管の布設替え状況と今後の計画を確認(上水道課) ⇒約5.4Km ※H29 約5.4Km(H28 約5Km) ・上水道の揚水量の把握(上水道課) ⇒水収支評価への反映</p>	<p>・老朽管の布設替え状況を確認(上水道課) ⇒約5.1Km ・上水道の揚水量の把握(上水道課) ⇒水収支評価への反映</p>	<p>・老朽管の布設替え状況を確認(上水道課) ⇒約3.8Km ・上水道の揚水量の把握(上水道課) ⇒水収支評価への反映</p>	<p>・老朽管の布設替え状況(上水道課) 4.4941Km ・上水道の揚水量の把握(上水道課) ⇒水収支評価への反映</p>	<p>・老朽管の布設替え状況(上水道課) 2.152km ・上水道の揚水量の把握(上水道課) ⇒水収支評価への反映</p>	100%	○ (100%)	・老朽管(耐用年数40年以上経過している管路)対策を計画的に実施した。	・継続実施	

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					令和3年度
2 水を上手に使う施策	2-3	地下水採取審査委員会における企業揚水再活用方法の要請とフォローアップ	・継続(定期的な開催は年に最大6回) ・フォローアップ調査を1回/年	・審査委員会において揚水の再活用や再涵養等の取組を要請 ・要請した再活用・再涵養等の取組状況について、フォローアップ調査を実施(1回/年)	・地下水採取審査委員会において、揚水の再利用や再涵養等の取組を要請 ⇒審査件数1件 ・採取量報告結果の整理 ⇒採取量報告227件 ・水の日・週間PRを兼ねて市内地下水採取事業所を対象としたアンケート調査実施・集計・分析 ⇒回収率66/116 ・水の日・週間PRを兼ねて新設(事前協議)井戸の採取事業所を対象としたフォローアップアンケート調査実施・集計・分析 ⇒回収率3/5 ・事前協議を経た新設井戸の承認条件の履行状況確認(提出された地下水位調査結果を審査委員会に報告)	①地下水採取審査委員会において、揚水の再利用や再涵養等の取組を要請 ⇒審査件数1件 ②採取量報告結果の整理 ⇒採取量報告9件(14本)/9件(14本) ③事前協議・審査案件に関するフォローアップ調査の実施・整理 ⇒審査委員会付帯事項等の履行状況確認 ⇒再活用・再涵養等の取組状況確認	①採取量報告結果の整理 ⇒採取量報告9件(14本)/9件(14本) ②事前協議・審査案件に関するフォローアップ調査の実施・整理 ⇒審査委員会付帯事項等の履行状況確認 ⇒再活用・再涵養等の取組状況確認	①採取量報告結果の整理 ⇒採取量報告9件(14本)/9件(14本) ②事前協議・審査案件に関するフォローアップ調査の実施・整理 ⇒審査委員会付帯事項等の履行状況確認 ⇒再活用・再涵養等の取組状況確認	100%	○ (100%)	・フォローアップ調査の実施等の年度目標を達成	・継続実施 ・令和4年度からの新たな行動計画では、施策2-3「揚水者に対する揚水再活用の要請とフォローアップ」の中で取り組んでいく。	
	2-4	再涵養方法に関する手引き等の作成	手引き(案)の検討継続	再涵養方法等の事例収集等に向けた準備を進める	・節水先進地(熊本市・福岡市)事例収集・検討・整理 ・涵養先進地(秦野市)質問・ヒアリング ・涵養先進地(西条市)現地視察・ヒアリング ⇒施策検討・整理 ・アンケート結果をもとに市内地下水採取事業所の取組について ⇒ヒアリング6社 新規 ⇒「安曇野ウォータープラン・サポート制度」検討・骨子作成 「企業敷地内親水公園、ビオトープ等 再利用→涵養施設の設置」 新規	・H31年度環境研究総合推進費(環境省事業)に応募、本研究の中に「事業所用の涵養、再利用等のガイドライン(手引書)」の研究・制作を盛り込み採択を目指した。 ⇒不採択 ・「事業所用の涵養、再利用等のガイドライン(手引書)」の研究・制作を大学・研究機関と共同で市内揚水事業所(前年度ヒアリング企業)視察・ヒアリングを実施し検討した。	・企業の再涵養手法の検討 ・様式(地下水採取報告書)を改正、「年間地下水涵養量」の記入欄を設けた。	・採取報告書の涵養量の集計及びヒアリング 涵養量:8,099.419m ³ (うち雨水浸透以外3,000m ³) 雨水浸透以外の取組も計画履行前(H29.3.31以前)の取組であるため、人為的な涵養量に計上できない。また企業等に情報提供できるような取り組みはなかった。	・再涵養の取組に係る現地確認(企業訪問)に関して、令和4年度の実施を目指し、訪問計画等の作成を行った。	100%	○ (100%)	・令和4年度の企業訪問に係る計画を作成した。	・令和4年4月からは、ほかの企業への事例の情報提供を目指し、再涵養の取組等に関して、現地確認(企業訪問)を行い、情報収集等を行っていく。 ・令和4年度からの新たな行動計画では、施策2-4「再涵養方法に関する事例の提供と周知」の中で取り組んでいく。
	2-5	水の適正利用に関するコンテスト等の開催・広報の実施	R3年度に検討結果を整理	R4年度からのコンテスト等の実施に向けた検討を進める	—	・穂高北小学校4年生の生徒26名が出前授業を受けて節水に関するポスターを制作 ⇒市役所庁舎(本庁舎・各支所)で巡回掲示を行った。 新規	—	水道使用量を報告していただくモニター制度及び揚水事業者の節水・地下水涵養取組のPR事業について検討した。	—	100%	△ (33%)	・コンテスト等の開催等に関して、検討を行ってきたが、次期行動計画では、施策2-5「水の適正利用に関する意識啓発と広報の実施」の中で、意識啓発と広報の実施に主眼を置き、事業を行っていくこととなった。	・令和4年度からの新たな行動計画では、施策2-5「水の適正利用に関する意識啓発と広報の実施」の中で、水の適正利用に係る意識啓発と広報の実施などを中心に取り組んでいく。
	NEXT	適正利用等に関する調査・研究	R3年度に検討結果を整理	—	市民・事業所を対象とした節水普及活動の検討 ・ウォータープロジェクト(環境省)参加企業にヒアリング ⇒ヒアリング県外企業2社 新規 ⇒「安曇野ウォータープラン・サポート制度」検討・骨子作成 「節水運動実現に向けた節水手引書(家庭用・事業所用)」の制作・普及」 新規	・H31年度環境研究総合推進費(環境省事業)に応募、本研究の中に「事業所用の涵養、再利用等のガイドライン(手引書)」の研究・制作を盛り込み採択を目指した。 ・「事業所用の涵養、再利用等のガイドライン(手引書)」の研究・制作を大学・研究機関と共同で市内揚水事業所(前年度ヒアリング企業)視察・ヒアリングを実施し検討した。 新規 ・災害用井戸の普及を進める先進地(京都市)を視察 ・京都市を含む全国先進事例を収集・整理・分析し、安曇野版の「災害用井戸指定制度(仮称)」を検討・整理 ⇒本年度創設・運用を開始したWPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度の申請条件に「災害用井戸指定制度(仮称)」創設後の速やかな届出を行うことを付した。 新規	・企業の再涵養手法の検討 ・エネルギー(地中熱利用)の可能性調査として国にヒアリング調査を行った。 ・汚水処理未普及人口の解消(くみ取り便槽や単独浄化槽から下水道接続・合併処理浄化槽への切り替え)を促す施策・仕組み(小・中学校トイレの洋式化(水洗化)(省エネ設備)の促進)の検討・整理	先進事例等の情報収集をした。	・企業の再涵養手法について、その内容を確認し、8月の広報紙で広く事例の周知を行った。	1%	◎ (33%)	・R4年度から取り組む当初計画に先行し取り組んでいる。	・令和4年4月からは、企業の再涵養や節水の取組等に関して、現地確認を行い、情報収集等を行っていく。

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)					年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
3 水を清らかなまま維持する施策	3-1	水質のモニタリング調査	2回/年	2回/年	<ul style="list-style-type: none"> 地下水(井戸水)水質調査(一般飲料水検査)28箇所 2回/年 地下水(井戸水)水質調査(トリクロロエチレン検査)夏期4箇所 冬期2箇所 地下水(井戸水)水質調査(硝酸態窒素検査)3箇所 2回/年 秦野市事例収集・検討・整理 西条市現地視察・検討・整理 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水(井戸水)水質調査(一般飲料水検査)28箇所 2回/年 地下水(井戸水)水質調査(トリクロロエチレン検査)夏期4箇所 冬期2箇所 地下水(井戸水)水質調査(硝酸態窒素検査)3箇所 2回/年 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水(井戸水)水質調査(一般飲料水検査)28箇所 2回/年 地下水(井戸水)水質調査(トリクロロエチレン検査)夏期4箇所 冬期2箇所 地下水(井戸水)水質調査(硝酸態窒素検査)3箇所 2回/年 WPサポート制度「家庭用井戸水質検査費補助金交付」制度【水質検査箇所4箇所増加】 <ul style="list-style-type: none"> 申請4件(市内水質検査井戸4基増加) 水質検査結果整理 長野県薬剤師会・サクセンと連携協定を締結し、サポート制度会員がいつでも無料で井戸に関する問い合わせができる体制を整備した。 WPサポート制度「事業所井戸・水質水位調査結果の共有・公表」方法の検討・整理について、採択されたH30年度「先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)」での実施を要望→報告内容を整理・検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水(井戸水)水質調査(一般飲料水検査)28箇所 2回/年 地下水(井戸水)水質調査(トリクロロエチレン検査)夏期4箇所 冬期2箇所 地下水(井戸水)水質調査(硝酸態窒素検査)3箇所 2回/年 WPサポート制度「家庭用井戸水質検査費補助金交付」制度【水質検査箇所1箇所増加】 <ul style="list-style-type: none"> 申請1件(市内水質検査井戸計5基増加) 水質検査結果整理 	<ul style="list-style-type: none"> 水質調査の継続実施 <ul style="list-style-type: none"> 地下水(井戸水)(一般飲料水検査)28箇所 2回/年 トリクロロエチレン検査 夏期4箇所 これまでの検査結果により、既に汚染の恐れはないと判断されたため、令和2年度夏期をもって検査を終了することとした。 硝酸態窒素検査)3箇所 2回/年 WPサポート制度「家庭用井戸水質検査費補助金交付」事業実施・運用 水質検査結果の整理・分析 	100%	○ (100%)	・年度目標達成	・継続実施	
	3-2	水質の情報公開	市HPで公表	市HP公表	水質調査結果を市ホームページに公表(前年度分)	水質調査結果を市ホームページに公表(前年度分)	水質調査結果を市ホームページに公表(前年度分)	水質調査結果を市ホームページに公表(前年度分)	水質調査結果を市ホームページに公表した(前年度分)	水質調査結果を市ホームページに公表した(前年度分)	100%	○ (100%)	・年度目標達成	・継続実施
	3-3	地場産業における水環境配慮の取組広報方法の検討・実施	1回/年以上広報	・水質保全の取組状況等に関する調査、整理	-	<ul style="list-style-type: none"> 地下水を活用する地場産業(農水産業)の水質保全の取組状況の調査・整理 広報に対する農家のニーズ調査・把握 	-	-	-	-	100%	△ (25%)	・未実施	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新たな行動計画では、施策3-3「事業者が行う水環境配慮の取組広報方法の検討・実施」の中で取り組んでいく。 令和4年度は地下水を活用する事業者の水質保全に係る取組状況等に関して、調査、整理を行い、広報方法について検討を進める。
	3-4	河川の一斉清掃	2回/年	2回/年	<ul style="list-style-type: none"> 河川の一斉清掃(廃棄物対策課) <ul style="list-style-type: none"> 春・秋 2回/年 実施 憩いの池清掃(都市計画課) <ul style="list-style-type: none"> 除草作業(業者委託)1回/2ヶ月 池内清掃(関係部署職員)2回 春の観光地環境美化活動「ごみゼロの日」統一美化キャンペーンの一環で憩いの池清掃活動実施1回(廃棄物対策課) 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の一斉清掃(廃棄物対策課) <ul style="list-style-type: none"> 春・秋 2回/年 実施 憩いの池清掃(都市計画課) <ul style="list-style-type: none"> 除草作業(業者委託)4回 池内清掃(関係部署協力)3回 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の一斉清掃(廃棄物対策課) <ul style="list-style-type: none"> 春・秋 2回/年 実施 憩いの池清掃(都市計画課) <ul style="list-style-type: none"> 除草作業(業者委託)3回 池内清掃(関係部署協力)2回 憩いの池の特定外来生物オオカワワヂヤ駆除 <ul style="list-style-type: none"> 駆除量950kg 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の一斉清掃(廃棄物対策課) <ul style="list-style-type: none"> 秋・春 2回/年 実施 ※新型コロナウイルスの影響で5月を3月に振替 憩いの池清掃(都市計画課) <ul style="list-style-type: none"> 除草作業(業者委託)3回 池内清掃(関係部署協力)2回 憩いの池の特定外来生物オオカワワヂヤ駆除 <ul style="list-style-type: none"> 駆除量1950kg(2回分合計) 	100%	○ (100%)	・年度目標を達成 ・憩いの池の特定外来生物オオカワワヂヤを駆除した。	・継続実施		
	3-5	不法投棄の監視	監視員15人程度	監視員15人程度	・監視員15人	・監視員15人	・監視員15人	・監視員15人	・監視員15人	・監視員14人	100%	○ (93%)	・令和3年度のみ14人となった。	・継続実施
	3-6	合併浄化槽の管理徹底	1回/年	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> 長野県松本地域振興局環境課が行う合併浄化槽の現地確認及び管理者への改善指導に同行 浄化槽管理者に3つの責務(保守点検・清掃・法定検査)徹底を促すため補助金確定通知時及び工事完了、使用開始届出時にチラシ配布 ※本年度から配布開始 	<ul style="list-style-type: none"> 長野県松本地域振興局環境課が行う合併浄化槽の現地確認及び管理者への改善指導に同行 浄化槽管理者に3つの責務(保守点検・清掃・法定検査)徹底を促すため補助金確定通知時及び工事完了、使用開始届出時にチラシ配布 	<ul style="list-style-type: none"> 長野県松本地域振興局環境課が行う合併浄化槽の現地確認及び管理者への改善指導に同行 浄化槽管理者に3つの責務(保守点検・清掃・法定検査)徹底を促すため補助金確定通知時及び工事完了、使用開始届出時にチラシ配布 県・協会制作啓発チラシを個別に窓口で配布 	<ul style="list-style-type: none"> 長野県松本地域振興局環境課が行う合併浄化槽の現地確認及び管理者への改善指導に同行 浄化槽管理者に3つの責務(保守点検・清掃・法定検査)徹底を促すため補助金確定通知時及び工事完了、使用開始届出時にチラシ配布 県・協会制作啓発チラシを個別に窓口で配布 	<ul style="list-style-type: none"> 長野県松本地域振興局環境課が行う合併浄化槽の現地確認及び管理者への改善指導に同行 浄化槽管理者に3つの責務(保守点検・清掃・法定検査)徹底を促すため補助金確定通知時及び工事完了、使用開始届出時にチラシ配布 県・協会制作啓発チラシを個別に窓口で配布 	100%	○ (100%)	・年度目標を達成し、複数回、改善指導・広報活動を実施した。	・継続実施	

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など		
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					令和3年度	
4 水を大切に誇りに思える施策	4-1	市ホームページの地下水関連の1本化検討・実施	R2年度にサイト運用	・涵養施策等の取組と連動しながら、ホームページ掲載内容等を検討していく	・7/14愛媛県西条市視察 ・水関連情報の集約(市HPの水計画ページ)	-	-	-	100%	△ (20%)	・令和2年度末に、市ホームページのリニューアルと重なったこと等もあり未実施	・涵養施策や事業者の水収支公表の仕組みづくり等の取組と連動しながら、市ホームページへの掲載時期や内容を検討していく。		
4 水を大切に誇りに思える施策	4-2	定期的なイベントの開催・参加の場を捉えた積極的な広報・啓発	1回/年以上広報	1回/年以上広報	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所を対象としたアンケート調査依頼通知に普及啓発情報(水計画・行動計画の概要版・名水百選選抜総選挙結果・水の日チラシ)を同封して発送116件 ・10/7地下水講座/子供向け体験講座(市民等対象)開催(環境フェアと同時開催) <ul style="list-style-type: none"> ⇒地下水講座は、一般市民等を対象に水計画を周知 ⇒子供向け体験講座は、水をテーマにした市初の子ども向け水体験プログラムを(株)バスクリンとのコラボとアメリカで開発された水体験プログラム「プロジェクトWET」を活用して実施(参加者合計約180名) ・名水サミットin西予参加・西条市視察・情報交換(7/14~16) ・10/13日本地下水学会秋季講演会(弘前大学)に於いて「安曇野セッション」発表、又、セッションの後開催された地下水学会理事との意見交換会「自治体との意見交換会 安曇野市」(学会初の企画)に出席し当市の取組の紹介と課題解決策について意見交換を行った。 ・10/24「CDP 2017 気候変動・水・森林コモディティ 日本報告会」と同時開催された環境省Water Project「～水の恩恵を伝える～」で講演 ・環境省・国交省打合せ・情報収集・情報発信 ・名水百選の「KURA」等雑誌掲載、MIDORI長野駅店内にタペストリー設置 ・環境カオリスト検定公式テキストに名水百選掲載 ・地下水マネジメント検討委員会(内閣官房水循環政策本部)ヒアリング対象地域の指定を受けた。 ・1/17「流域水循環計画」(内閣官房水循環政策本部)に水循環基本法・水循環基本計画を受けて策定された全国初の計画として認定を受けた。 ・国が制作する「地下水マネジメント手引書」に本市の取組が事例掲載される。 ・国が制作する「流域マネジメント手引書」に本市の取組が事例掲載される。 ・3/8ウォータープロジェクト(環境省)意見交換会参加 ・12/15富士市市議会議員視察対応 ・3/20(一社)流域水管理研究所視察対応 ・3/29琉球大学教授視察対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○イベント開催【3回】 ・8/15 自然観察会(湧水を調べよう)開催(参加者17名) ・10/6アクアソムリエセミナー(参加者約30名)/あそびから知る水の話(プロジェクトWETプログラム)イベント開催(子ども22名、大人9名)(環境フェアと同時開催) <ul style="list-style-type: none"> ⇒主婦層をターゲットにアクアソムリエセミナーを開催、利き水の他、健康や美容と水の関係や安曇野の水と相性のいい料理レシピ等の紹介を行った ⇒前年度に引き続き、子供を対象にアメリカで開発された水体験プログラム「プロジェクトWET」を活用したイベントを実施 ○広報・啓発活動 ・名水サミットin黒部4名参加(7/13~14) ・環境省・国交省・内閣官房水循環政策本部事務局打合せ・情報収集・情報発信 ・ニチレイグループ広報誌掲載 ・RIVER FRONT機関誌掲載 ・日本地下水学会誌掲載 ・会報「サン」掲載 ・内閣官房水循環政策本部「水循環白書」掲載(予定) ・内閣官房水循環政策本部「事例集」掲載 ・MIDORI長野駅構内で名水百選「安曇野わさび田湧水群」のタペストリー設置や関連パンフレットの配布 ・H30年度先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)応募・採択 ・H30年度国土交通省「地下水の見える化調査」事業のパイロット地区の選定を受けた ・1/24 国交省主催「地下水マネジメントのススメ」セミナー(中部・近畿ブロック)に於いて自治体職員を対象に講演(先進事例紹介)(名古屋開催) ・地方紙・地域誌・雑誌等に記事等が掲載された ・名水百選、地下水に関するテレビ、雑誌取材対応 ⇒TV放映「林修の今でしょ講座」(テレビ朝日系列)、「林修のニッポンドリル(フジテレビ系列)等 ○視察対応【2回】 ・4/24 ニチレイグループ視察・取材対応 ・11/21 秩父市・昭島市・福岡市議会議員、小鹿野町・横瀬町議会議員視察対応 ○問合せ対応 ・全国自治体等からの電話での問い合わせに対応(事例紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ○イベント開催 ・環境フェアと同時開催イベントを企画・計画→台風の影響で中止 ①安曇野水めぐり ②水の天使とスコロクで遊ぼう(安曇野市×環境省ウォータープロジェクト)【ゼロ予算】 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報・啓発活動 ・名水サミットin鹿児島2名参加(10/5~6)、先進地熊本県熊本市視察2名(10/4) ・環境省、国交省、内閣官房水循環政策本部事務局打合せ・情報収集・情報発信 ・雨水貯留浸透技術協会誌掲載 ・特集テーマ「水循環 貯留と浸透」 ・RIVER FRONT機関誌掲載 ・特集テーマ「水循環」 ・水制度改革議員連盟水循環基本法フォローアップ委員会ヒアリング出席(於：衆議院議員会館) ・国土交通省地下水マネジメント検討委員会ヒアリング対応(於：安曇野市役所) ・TV取材対応、放映(SBCエコージー最前線) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行雑誌に名水カード配布の情報提供・掲載 ・6/10豊科北小にて出前授業(29名) ・12/4環カフェにて地下水保全に関する講演及び豊科北小の取組発表(34名) ・地下水保全ガイドライン改定に係るヒアリング対応(WEB会議) <ul style="list-style-type: none"> ⇒「地下水保全」ガイドライン・事例集(第二版)に安曇野市及びアルプス地域地下水保全対策協議会の取組が掲載された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5/24に安曇野市消費者の会に出前講座を実施 ・6/8に堀金小学校4年生に、6/22には豊科北小学校4年生に、それぞれ出前授業を実施 ・11/27に環カフェにて、地下水保全に係る豊科北小学校の取組を発表 	100%	○ (100%)	・年度目標を達成し、さらに多く広報活動を実施した。	・継続実施 ・令和4年度からの新たな行動計画では、施策4-2「水環境に親しむ場の創出と積極的な広報・啓発」の中で取り組んでいく。

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
					平成29年度 ・「地下水講座・子供向け体験プログラム」 [新規]	平成30年度 水体験プログラム「プロジェクトWET」 ⇒環境フェアで同時開催 ⇒H31年度小・中学校向け出前講座のメニューに新しく追加し12/20開催の校長会で周知 [新規]						
	4-3	(仮称)安曇野マークの制作と認証制度の創設 検討・実施・運用	・R2年度に(仮称)安曇野マークの公募・決定 ・R3年度に制度等運用	・中長期的視点から、資金調達の検討と運動しながら、引き続き検討を進める	・事業所を対象としたアンケート調査でマーク活用のニーズ調査を実施(回収率66/116) ・秦野市事例収集・検討・整理 ・県外企業B社と安曇野マークの活用方法について意見交換 ・アンケート結果をもとに市内地下水採取事業所の取組について ⇒ヒアリング6社 [新規]	・H30年度先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)に応募 ・採択・国と共同による市水環境基本計画の実施 ⇒企業連携について、国が全国の先進事例を参考に安曇野市の適用可能性を調査・報告 [新規]		資金調達の見通しが経った段階で検討することとした	100%	△ (50%)	・検討をしてきた経過はあるものの未実施となった。 ・資金調達の是非と歩調を合わせながら検討していくこととなった。	・資金調達の是非に係る検討状況を踏まえながら、検討を進めていく。
	4-4	広報ツールやノベルティの検討・制作	H29年度以降随時制作	・PRツールの検討・制作 ・PR活動1回以上/年	・「水計画」「可視化研究結果」「名水百選選抜総選挙」結果(2冠)・「安曇野名水PR」のパネル制作13枚 ⇒10/7地下水講座・子供向け体験プログラムイベントで利用 ⇒2月～本庁舎・各支所で展示 ・「名水百選選抜総選挙」結果ムービー(環境省製作)の活用 ⇒出前講座で利用 ⇒10/7地下水講座・子供向け体験プログラムイベントで利用 ・「名水百選選抜総選挙」結果ムービー(環境省製作)の有効活用方法の検討(配布数272枚) ⇒全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会に議事提案 ⇒出前講座参加者、10/7イベント参加者全員にカードを配布 ⇒窓口に来られたカード収集者に配布 ・秦野市事例収集・検討・整理 ・(株)バスクリンとコラボして作成した(ゼロ予算)節水チラシを国等へPR	○PRツール制作 ・8/22H30年度国土交通省「地下水の見える化調査」事業ヒアリング受験 ⇒H30年度パイロット地域選定 ⇒国土交通省事業に協力し本市の地下水の見える化・見せる化ツール(模型・図表・パワーポイント・パネル)制作 ⇒3-4月市役所本庁舎・各支所でパネル展示 ・これまで国主導で行ってきた事業だが、今回は計画段階から本市も事業に参加する共同事業として実施された。 ○PR活動 ・「名水百選選抜総選挙」結果ムービー(環境省製作)の活用【3回】 ⇒豊科南中学校・穂高北小学校の出前授業で利用 ⇒10/6アークアソムリエセミナー/あそびから知る水の話(プロジェクトWETイベント開催)(環境フェアと同時開催)で利用 ・H29年度制作したパネル展示【2回】 ⇒10/6-7環境フェアのイベント会場で展示 ⇒3-4月市役所本庁舎・各支所でパネル・模型・節水ポスター(穂高北小学校4年生作)展示 ・「名水百選選抜総選挙」結果ムービー(1,000枚)の有効活用方法の検討【配布数356枚】 ⇒出前授業、10/6水イベント参加者全員にカードを配布 ⇒窓口に来られたカード収集者に配布 [新規]	・「名水百選選抜総選挙」結果ムービー(1,000枚)の追加作成 ・H29年度に制作したパネルの展示等の活用 ・H30年度に国土交通省事業で制作した地下水の見える化・見せる化ツール(模型・図表・パワーポイント・パネル)の活用 ⇒本庁舎及び市内図書館において模型を巡回展示(3月1日～4月29日) ⇒出前講座、出前授業等で模型を活用 ノベルティについては資金調達の見通しが経った段階で検討することとした。	・「名水百選選抜総選挙」結果ムービー(1,000枚)の追加作成 ・H30年度に国土交通省事業で制作した地下水の見える化・見せる化ツール(模型・図表・パワーポイント・パネル)の活用 ⇒本庁舎及び市内図書館において模型を巡回展示(3月1日～4月29日) ⇒出前講座、出前授業等で模型を活用	100%	△ (50%)	・広報ツールの制作やツールを使用したPRは実施することができたが、ノベルティに関しては、資金調達の是非に係る検討状況と歩調を合わせて進めていくこととした。	・令和4年度からの新たな行動計画では、施策4-4「広報ツール等の利活用」の中で引き続き取り組んでいく。

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)					年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
4 水を大切に誇りに 思える施策	4-5	水環境の学習教材(副読本・副教材)の制作・活用及び体験学習の検討	R2年度に制作	水環境に係る学習教材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 10/7に子ども向け体験講座で(株)バスクリンとコラボして入浴・健康視点で水の大切さの理解と節水意識の醸成を促すプログラムを開催 10/7に子ども向け体験講座で「プロジェクトWET」を活用した水の大切さを子供に伝えるプログラムを開催 <ul style="list-style-type: none"> ⇒合計約100名参加 (株)バスクリンマッチング事業(ゼロ予算) <ul style="list-style-type: none"> ⇒入浴・健康視点の節水普及啓発チラシを(株)バスクリンが自己資金で製作・印刷し当市へ提供(4,500部) 秦野市、熊本市、福岡市事例収集 	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習の開催【3回】 <ul style="list-style-type: none"> 8/15 自然観察会(湧水を調べよう)開催(参加者17名) 10/6アクトソムリエセミナー(参加者約30名)/あそびから知る水の話(プロジェクトWETプログラム)イベント開催(子ども22名、大人9名)(環境フェアと同時開催) 学習教材の制作・活用 <ul style="list-style-type: none"> 国土交通省H30年度「地下水の見える化調査」事業のパイロット地域に選定され、普及啓発の出前授業・講座、イベントに活用する本市の地下水の見える化・見せる化工具(模型・図表・パワーポイント・パネル)を国と共同制作 <ul style="list-style-type: none"> ⇒3-4月市役所本庁舎・各支所でパネル展示 	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習の開催【2回計画→中止】 <ul style="list-style-type: none"> 環境フェアと同時開催イベントを企画・計画→台風の影響で中止 ①安曇野水めぐり ②水の天使とスゴロクで遊ぼう(安曇野市※環境省ウォータープロジェクト)【ゼロ予算】 	<ul style="list-style-type: none"> 豊科北小にて水質分析体験、水位測定体験を実施 小学校高学年以上向けに、地下水のしくみを含めたスライド資料を作成した 	<ul style="list-style-type: none"> 豊科北小にて水質分析体験、水位測定体験を実施 令和2年度に作成した地下水のしくみを含めたスライド資料を出前授業で活用 	100%	○ (100%)	<ul style="list-style-type: none"> 豊科北小学校の出前講座をきっかけに、小学校高学年以上向けに、地下水のしくみを含めたスライド資料を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 令和4年度からの新たな行動計画では、施策4-5「水環境の学習教材の制作・活用及び体験学習等の検討」の中で取り組んでいく。
	4-6	学校等と連携したコンクール等の検討・調整・開催	1回/年以上開催	実施の検討	—	<ul style="list-style-type: none"> 穂高北小学校の生徒26名が出前授業を受けて節水に関するポスターを作成 <ul style="list-style-type: none"> ⇒市役所庁舎(本庁舎・各支所)で巡回掲示を行った。 	—	—	—	100%	△ (33%)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響による授業カリキュラム変更によりR2、3年の実施が困難となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新たな行動計画では、学校と連携した取組として、施策4-5「水環境の学習教材の制作・活用及び体験学習等の検討」の中で意識啓発等に取り組んでいく。
	4-7	出前講座の展開	要請を受けて適宜開催(継続)	要請を受けて適宜開催	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座の実施 3回(参加者計50人) 出前講座説明資料の見直し(可視化研修成果の活用等) 出前講座の説明方法の見直し(ムービーの活用等) 	<ul style="list-style-type: none"> 1/20 出前講座の実施【1回、参加者 10人】 	<ul style="list-style-type: none"> 【授業前の調整・打合せ】 市立豊科南中学校ヒアリング実施 市立穂高北小学校説明会実施 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座の実施【0回、参加者0人】 小・中学校向け出前授業開始・開催【1回、参加生徒3名】 6/14 豊科南中学校3学年(総合学習の時間)(60分)実施(生徒数3名) 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> 11/20 二木公民館 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため資料の配布に切り替え(307世帯に配布) 11/25 あかしないいまちつくりかい!!(120分・市民25名) 小・中学校向け出前授業等【2回、参加生徒32名】 6/10 豊科北小学校6学年(総合的な学習の時間)(90分)実施(生徒数29名) 6/14 豊科北中学校1学年(総合的な学習の時間)(60分)実施(生徒数3名) 	100%	○ (100%)	<ul style="list-style-type: none"> 学校等からの要請を受け、出前授業、出前講座を複数回開催することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 出前講座・出前授業応募件数の増加を目指して普及啓発を行う。

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					令和3年度
4 水を大切に誇りに思える施策	4-7	出前講座の展開	要請を受けて適宜開催(継続)	・要請を受けて適宜開催	<p>○小・中学校向け出前授業開始・開催【3回、参加生徒・児童数 256名】</p> <p>・5/29 豊科南中学校2年4組出前授業(50分)実施(生徒数31名)</p> <p>⇒環境課講演他、校内にある検査井戸を利用した水位検査体験等を検査業者の協力を得て実施</p> <p>・8/31 豊科南中学校2学年を対象とした第2回出前授業(100分)実施(生徒数116名)</p> <p>⇒環境課及び上水道課講演他、企業連携事業で、TOTO(株)が実験キットを用いた出前授業を無償で実施</p> <p>・12/6 穂高北小学校を4年生を対象とした出前授業 3時間目(60分)実施(児童数109名)</p> <p>⇒環境課及び上水道課講演</p> <p>⇒研究授業の一環で行われ、児童は出前授業の前後も学習し、節水のポスター制作も行った。</p> <p>★各授業でアンケート調査を実施、結果集計を行った。</p> <p style="text-align: right;">新規</p>	<p>○「中学校・高等学校を対象とした出前授業(水教育)」の可能性調査・実施検討</p> <p style="text-align: right;">新規</p>	<p>○企業向け出前講座開始・開催【1回、参加者数 約30名】</p> <p>・3/5 東京アート(株)社員を対象に企業向け出前講座実施(参加者約30名)</p> <p>⇒アンケート調査を実施、結果集計を行った。</p> <p>⇒講座終了後、懇談会(講座の感想、今後の連携等に関する意見交換)を行った。</p> <p style="text-align: right;">新規</p>			<p>・5/24に安曇野市消費者の会(20人)に出前講座を実施</p> <p>・6/8に堀金小学校4年生(66人)に、6/22には豊科北小学校4年生(91人)に、それぞれ出前授業を実施</p> <p>・8/19に市内中学生(10人)を対象に出前講座を実施</p>			
					<p>○「企業向け出前講座」可能性調査・実施検討</p> <p style="text-align: right;">新規</p>								
	4-8	市民意向調査の実施	R1年度に実施	計画策定等において活用	—	<p>・H31年度市民意向調査の実施に向けた予算措置</p>	<p>・市民意向調査の実施</p> <p>⇒前回(H23年度)調査からの意識変容等の整理・分析</p>	各種資料に反映	100%	○(100%)	<p>・水環境基本計画の中間見直しと、水環境行動計画(2022~2026)の策定の際に参考資料として活用</p>	<p>・市民意向調査結果を水環境基本計画の改訂等に活用できた。</p>	<p>・令和6年度に実施予定の次回市民意向調査実施に向けて、準備を進めていく。</p>
NEXT	名水の価値の向上等に関する調査・研究	R4年度以降の名水価値の差別化を目指す	—	—	<p>・日本アクアソムリエ協会とマッチング事業の展開交渉</p> <p>⇒アクアソムリエによる安曇野の水の特徴を調べる簡易的な利き水及びアンケート調査を実施し結果を整理した。</p> <p style="text-align: right;">新規</p>	<p>・名水価値の底上げ、ブランディングに資する手法(PR・マーケティング強化等)の検討・整理</p> <p>⇒環境省ウォータープロジェクトを通じた旭化成ホームプロダクツとの連携検討</p>	<p>・資金調達の見通しが経った段階で検討することとした</p> <p>・環境省ウォータープロジェクトを通じた旭化成ホームプロダクツとの連携事業を開始した。</p>	1%	◎(100%) +新規	<p>・環境省ウォータープロジェクトを通じた旭化成ホームプロダクツとの連携事業を実施</p>	<p>・名水価値の向上手法の検討・整理の継続</p> <p>・旭化成ホームプロダクツとの連携継続</p>		
5 地下水保全・強化・活用を支援する社会システムの構築	5-1	市内関係者による地下水協力金の検討・実施	R2年度に協力金の調達開始	継続検討	<p>・7/14愛媛県西条市視察</p> <p>・秦野市事例収集・検討・整理</p> <p>・事業所を対象としたアンケート調査で協力金に関する意向調査を実施(回収率66/116)</p>	<p>○資金調達専門部会設置</p> <p>・10/29 第1回資金調達専門部会開催</p> <p>・3/25 第2回資金調達専門部会(第3回安曇野市水資源対策協議会と合同)開催</p> <p>○事例収集・整理、研究検討</p> <p>・環境研究総合推進費(環境省事業)を活用した「安曇野市水環境基本計画」推進に係る調査・研究・開発・社会実装の実施の取組で、資金調達・合意形成手法の研究も併せて研究することとし研究PTを構築、筑波大学を研究主体とし次年度事業の採択に向け本年度応募</p> <p>⇒不採択</p> <p style="text-align: right;">新規</p>	<p>○資金調達専門部会開催、検討スキームを整備した。</p> <p>・8/7 R1第1回資金調達専門部会(R1第2回安曇野市水資源対策協議会と合同)開催</p> <p>・1/31 R1第2回資金調達専門部会開催</p> <p>○事例収集・整理・分析</p> <p>・秦野市文書照会</p> <p>・先進自治体ヒアリング(電話)(秦野市、長岡京市、大野市、北杜市)</p> <p>・10/4熊本市視察 2名</p> <p>○スケジュール立て</p>	<p>・7/17資金調達専門部会開催</p> <p>・協議会、専門部会それぞれの役割を整理・再確認し、認識を共有した。</p> <p>「専門部会は、協議会において酒養目標を達成するための施策が決定され、そのために必要な金額や用途などが決定されたのち、対象費用と調達手段を検討する」</p> <p>・組織改編により、親部会である水資源対策協議会の解散に伴い同時に解散した。</p> <p>資金調達については、効果的な酒養施策が見つかるまで具体的な議論を見送ることとした。</p>	100%	△(40%)	<p>・資金調達の是非に係る検討を引き続き行っていくこととなった。</p>	<p>・令和4年度からの新たな行動計画では、施策5-1「市内関係者による地下水協力金の検討」の中で引き続き取り組んでいく。</p>	
					5-2	地下水協力金(市外)の検討・実施	R2年度に資金調達手法の実装	継続検討	<p>・市外からの資金調達方法を検討・整理</p> <p>・H30年度先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)に応募</p> <p>・採択・国と共同による市水環境基本計画の実施</p>	<p>・市外からの資金調達方法を検討・整理</p>	<p>効果的な酒養施策が見つかるまで資金調達の具体的な議論を見送ることとした</p>	100%	△(40%)

施策体系	施策番号	施策名称	目標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					令和3年度
5 地下水 保全・強 化・活用を 支援する 社会システ	5-3	事業者の水収支 公表の仕組みづく り	R1年度に公表開 始	継続検討	<ul style="list-style-type: none"> 国の事業(環境政策貢献型の競争的研究資金「環境研究総合推進費(環境省)」)の活用及び研究体制整備検討 新規 アンケート結果をもとに市内地下水採取事業所の取組について ⇒ヒアリング6社 新規 「安曇野ウォータープラン・サポート制度」検討・骨子作成 ②「事業所井戸 水質・水位調査結果の共有・公表」 ③「節水運動実現に向けた節水手引書(家庭用・事業所用)の制作・普及」 新規 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒企業連携について、国が全国の先進事例を参考に安曇野市の適用可能性を調査・報告 新規 WPサポート制度「事業所井戸・水質水位調査結果の共有・公表」方法の検討・整理について、採択されたH30年度「先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)」での実施を要望→報告内容を整理・検討 新規 	-	-	-	100%	△ (40%)	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせ、検討していくこととなった。	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせながら検討を進めていく。
	5-4	地下水保全等活 動への参加・協 力におけるイン センティブ付与	H29-30の検討・整 理結果を踏まえ、 中間評価で展開に ついて判断	継続検討	<ul style="list-style-type: none"> 水の日・週間PRを兼ねて市内地下水採取事業所を対象としたアンケート調査で企業のメリットを調べる市場調査を実施(回収率66/116) ⇒結果をとりまとめ分析・整理・検討 ⇒結果を踏まえ表彰制度の創設・取組公表を検討 市外企業と市内企業が商品や地下水保全の取組等でマッチングすることで相乗効果を生む方法を整理・検討 アンケート結果をもとに市内地下水採取事業所の取組について ⇒ヒアリング6社 新規 	<ul style="list-style-type: none"> 環境研究総合推進費(環境省事業)を活用した「安曇野市水環境基本計画」推進に係る調査・研究・開発・社会実装の実施【新規】の資金調達・合意形成手法の研究の中で利害関係者のインセンティブの付与も併せて研究することとし研究PTを構築、筑波大学を研究主体とし次年度事業の採択に向け本年度応募 ⇒不採択 WPサポート制度「家庭用井戸 水質検査費補助金交付」制度創設と運用に当たって、水質検査・水位測定専門業者と連携協定を締結したことで家庭用井戸使用者が安全・安心に地下水を利用できる環境を整備した。 地場産業における水環境配慮の取組広報と併せ、インセンティブ化する方法を検討・整理する 採択されたH30年度「先進的な流域マネジメントに関するモデル調査(内閣官房)」事業の一環で市内揚水事業所の本社をフラットな立場で国が本市との連携の可能性についてヒアリングを実施 全国の先進事例調査・検討・整理 先進地(大野市)の戦略・戦術や課題解決策、安曇野市版企業連携の可能性等について、内閣官房と合同で前副市長から聴き取りし意見交換を行った。 新規 	<ul style="list-style-type: none"> 名水価値の底上げ、ブランディングに資する手法(PR・マーケティング強化等)の検討・整理(国・企業連携)【4-NEXT関連】 	資金調達の見通しが経った段階で検討することとした	100%	△ (40%)	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせ、検討していくこととなった。	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせながら検討を進めていく。	
	6-1	計画・施策・資金 の運用・管理体 制の確立	安曇野市において 有効な体制を検 討・整理	継続検討	<ul style="list-style-type: none"> 7/14愛媛県西条市視察 資金の調達・運用・管理に係る「専門部会の設置」方針決定(12/18安曇野市水資源対策協議会に於いて承認) 	<ul style="list-style-type: none"> 10/29 第1回資金調達専門部会開催 3/25 第2回資金調達専門部会(第3回安曇野市水資源対策協議会と合同)開催 先進事例の収集・整理 環境研究総合推進費(環境省事業)を活用した「安曇野市水環境基本計画」推進に係る調査・研究・開発・社会実装の実施の取組で、資金調達・合意形成手法の研究も併せて研究することとし研究PTを構築、筑波大学を研究主体とし次年度事業の採択に向け本年度応募 ⇒不採択 新規 	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達部会を開催し、資金調達(市内)手法に加え、資金運用・管理体制も検討・整理 事例収集・整理・分析 ⇒安曇野市文書照会 ⇒先進自治体ヒアリング(電話)(秦野市、長岡京市、大野市、北杜市) ⇒10/4熊本市視察 2名 	効果的な涵養施策が見つかるまで資金調達の具体的な議論を見送ることとした	100%	△ (60%)	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせ、検討していくこととなった。	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせながら検討を進めていく。 ・令和4年度からの新たな行動計画では、施策6-1「運用・管理団体の設立」と一本化を図った。	
6-2	運用・管理団 体の設立(移行)	R4年度に移行	継続検討	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 運用・管理団体設立(移行)検討・整理 	効果的な涵養施策が見つかるまで資金調達の具体的な議論を見送ることとした	100%	△ (20%)	・資金調達のは非の検討と歩調を合わせ、検討していくこととなった。	・令和4年度からの新たな行動計画では、施策6-1「運用・管理団体の設立」の中で取り組んでいく。		

施策体系	施策番号	施策名称	目 標	R3年度 事業 達成目標	実績(達成率:%⇒評価欄に記載)				年次 経過率 (当初 計画)	評価 ※ (達成 率:%)	評価理由	次年度への 展望・課題など	
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					令和3年度
6 推進のための体制づくり	6-3	広域(流域)モニタリング体制の確立に向けた検討・調整	情報共有・協議・要請等を継続	情報共有・協議・要請等を継続	<p>○アルプス地域地下水保全対策協議会へ連携した松本盆地の定期的な実態調査の実施を要請</p> <p>・定期的に松本盆地の実態調査(一斉測水等)を実施し経年変化をモニタリングする必要性を共有</p> <p>・各市町村が実施している地下水水位・湧水量調査を活用した実態調査の実施を提案</p> <p>・実施時期を揃えた、各市町村が連携した実態調査の実施を提案</p> <p>→協議会で構成市町村を対象にアンケート調査を実施</p> <p>○協議会を各市町村が実施している地下水調査(水質・水位)を情報共有の場とすることを提案</p> <p>→実施</p> <p>○第3回担当者(2月)会議で以下について示された</p> <p>・地下水の保全及び涵養に関する広域的ルール(案)</p> <p>・各市町村が実施する地下水調査結果の共有方法の検討</p> <p>・各市町村が連携した一斉測水調査の実施方法の検討</p>	<p>・アルプス地域地下水保全対策協議会へ出席し、各自治体が発している水位・水質調査結果の把握・整理</p> <p>→2/8開催の協議会に於いて、H32年度安曇野市が実施する一斉測水に対する協力を構成自治体へ要請。H31年度に具体的検討を行うことになった。</p> <p>→アルプス地域地下水保全対策協議会の取組みとして市町村水位調査結果を取りまとめ各構成自治体のホームページで公開開始</p> <p>・アルプス地域地下水保全協議会「地下水の保全及び涵養に関する指針」制定・公表(H31.2.8)</p>	新規	<p>○アルプス地域地下水保全協議会参加</p> <p>→「地下水の保全及び涵養に関する指針」の取組の具体化</p> <p>・前年度の各自治体の水位・水質調査結果をオープンデータで公開</p> <p>・R2年度当市が実施する一斉測水への協力要請</p> <p>・一斉測水を10年毎実施することに決定(次回はR7年度)</p>	<p>○アルプス地域地下水保全協議会の事務局を担当</p> <p>・連絡会議1回(書面開催)、担当者会議を4回実施。</p> <p>・今後10年間の中期計画について整理した。</p> <p>・指針に係る取り組み状況を確認し、今後すべての市町村がすべての項目について取組を行うよう依頼した。</p> <p>・共通して使用できる啓発資料を作成・配布し、市公式ホームページ及びツイッターで公開した。</p>	100%	○ (100%)	・年度目標達成	・継続実施
6 推進のための体制づくり	6-4	地下水年報の作成・公表	R2年度から1回/年公表	継続検討	<p>・7/14愛媛県西条市視察</p> <p>・水関連情報の集約(市HPの水計画ページ)</p>	-	-	-	100%	△ (33%)	<p>・地下水涵養、資金調達等の運用状況を踏まえた検討も必要になることから、資金調達の係る検討状況も考慮しながら進めていくこととなった。</p>	<p>・公表方法・場の検討を引き続き進める。</p> <p>西条市地下水年報を参考に安曇野市バージョンの地下水年報の取りまとめ内容や公表方法の検討・整理を行う。</p>	

◎:水準を上回る	3	(主 体 傾 向)	<p>・令和4年度から取り組む企業の再涵養や節水の取組等に係る現地確認について、訪問計画等の作成に取り掛かることができた。</p> <p>・令和4年度以降から取り組むこととしていた名水の価値の向上等に関する調査・研究に関して、令和3年度は環境省ウォータープロジェクトを通じて、旭化成ホームプロダクツとの連携事業に取り組むことができた。</p>
○:概ね水準どおり	17		<p>・黒沢川とあづみ野広域排水路が接続された後のあづみ野広域排水路の涵養量について、令和2年度に涵養量を試算したが、令和3年度は黒沢川の流量調査を毎月行い、より実態に近い涵養量を算出することができた。</p> <p>・地下水水位、湧出量調査や水質調査を滞りなく行うことができた。</p>
△:水準を下回る	15		<p>・資金調達に関しては、その是非も含め、令和4年度以降に改めて検討していくこととなった。</p>

令和4年度 安曇野市水環境審議会 委員名簿

任期:2023(令和5)年5月31日まで

(順不同・敬称略)

No.	条例の区分	所属	氏名	備考
1	地下水全般に関して識見を有する者	大阪公立大学 現代システム科学域	遠藤 崇浩	会長
2	〃	信州大学 工学部 水環境・土木工学分野	中屋 眞司	
3	関係団体の推薦を受けた者	安曇野市 上下水道事業経営審議会	保尊 利生	
4	〃	長野県梓川土地改良区	丸山 啓二郎	
5	〃	安曇野工業会	増田 英治	
6	〃	信州山葵農業協同組合	武井 重夫	
7	〃	あづみ農業協同組合	相馬 和揮衛	
8	〃	安曇野市消費者の会	平田 米子	
9	公募により選任された市民		山地 博一	
10	その他市長が必要と認める者		村上 廣志	副会長
11	〃		上條 和男	
12	〃		岡江 正	
13	〃		高原 正雄	
14	〃		宮澤 貞仁	
15	〃		五十嵐 麻美	
16	〃		平林 徳子	
17	〃		池田 陽子	
18	〃		崎元 生歩子	

水収支の評価(水収支バランスの把握)

別紙2

水収支は以下のとおり、項目毎に量を算出し評価します。

【水収支評価シート】

					令和2年度	
大項目	中項目	億m ³ /年	小項目	億m ³ /年	備考	
A	安曇野市内への降水を源に流入する地下水量	1.21	土地浸透量	0.51	水収支解析による算出値	
			河川伏没量	0.47	実測値に基づく算出値	
			水田涵養量	0.23	耕作面積に基づく算出値	
B	市外から表流水経由で流入する地下水量	0.84	土地浸透量	0.00	なしにつきゼロ	
			河川伏没量	0.31	実測値に基づく算出値	
			水田涵養量	0.53	耕作面積に基づく算出値	
C	市外から流入する地下水量	4.00	土地浸透量	0.62	水収支解析による算出値	
			河川伏没量	3.29	実測値に基づく算出値	
			水田涵養量	1.51	耕作面積に基づく算出値	
			地下水揚水量	上水道	-0.12	水道・工業統計に基づく算出値
				上水道以外	-0.69	水道・工業統計に基づく算出値
地下水湧出量	-0.60	市外で湧出し河川に戻る推定量				
流入総計(A+B+C)			6.05		A+B+C	
D	安曇野市の地下水揚水量	0.36	上水道	0.12	地下水採取量報告書の届けに基づく算出値	
			上水道以外	0.24	地下水採取量報告書の届けに基づく算出値	
E	安曇野市の地下水湧出量	5.69	市内起源	1.69	A+B-D	
			市外起源	4.00	C	
流出総計(D+E)			6.05		D+E	
水収支(流入-流出)			0.00		(A+B+C)-(D+E)	

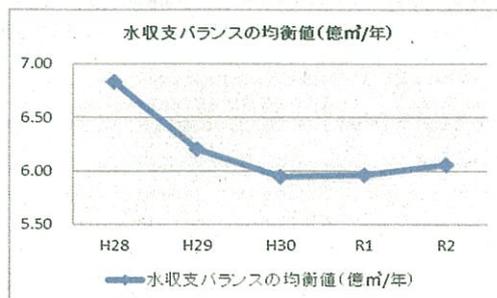
【評価】

- ・令和2年度の地下水流入量と流出量の均衡値は、前年度と比較して増加している。年間降水量が増加したことが要因の1つと考えられる。
- ・人為的な涵養施策により賦存量を増やすとともに、節水の取組を推進し、地下水揚水量を抑制することで、水収支のバランスの均衡値を上昇させていくことが求められる。

【水収支の経年変化】

年度	水収支バランスの均衡値(億m ³ /年)	前年度との差	評価
H28	6.83	—	—
H29	6.20	-0.63	水収支バランスの均衡値がH28年度と比べ下がった。
H30	5.95	-0.25	水収支バランスの均衡値がH29年度と比べ下がり、経年で低下傾向を示している。H28年度比較では、13%程度ほど低下した。
R1	5.96	0.01	水収支バランスの均衡値が、平成30年度と比較して上がった。
R2	6.05	0.09	水収支バランスの均衡値が、令和元年度と比較して上がった。

【水収支の経年変化(グラフ)】



3 水収支の評価

水収支は以下のとおり、項目毎に量を算出し評価します。

大項目	中項目	億m ³ /年	小項目	算出根拠とする資料	入手可能時期	基準値 (H26値) (億m ³ /年)	算出方法	
流入	A 安曇野市内への降水を源に流入する地下水量	右記を合計	土地浸透量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	0.52	(対象年の年間降水量÷1,057 ^{※1})×基準値	
			河川伏流量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	0.48	(対象年の年間降水量÷1,057 ^{※1})×基準値	
			水田涵養量	農政部局の水稲作付面積	●年●月	-	水稲作付面積m ² ×0.0275m/日×90日×0.3 ^{※2} ÷1億	
	B 市外から表流水経由で流入する地下水量	右記を合計	土地浸透量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	0.00	なしにつき常にゼロ	
			河川伏流量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	0.31	(対象年の年間降水量÷1,057 ^{※1})×基準値	
			水田涵養量	農政部局の水稲作付面積	●年●月	-	水稲作付面積m ² ×0.0275m/日×90日×0.7 ^{※3} ÷1億	
	C 市外から流入する地下水量	右記を合計	土地浸透量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	0.63	(対象年の年間降水量÷1,057 ^{※1})×基準値	
			河川伏流量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	3.34	(対象年の年間降水量÷1,057 ^{※1})×基準値	
			水田涵養量	作物統計調査 ^{※4}	当年年末～翌年年始	-	水稲作付面積m ² ×0.0275m/日×90日÷1億	
			地下水揚水量	上水道	長野県水道統計情報 ^{※5}	翌々年夏	-	左記資料から値を抽出
				上水道以外	工業統計調査 ^{※6}	翌々年春	-	左記資料の値に市町村毎に補正係数 ^{※7} を乗じ算出
			地下水湧出量	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	毎年1月	-0.62	安曇野市の地下水湧出量÷5.84 ^{※8} ×基準値	
流入総計	上記を合計					A+B+C		
流出	D 安曇野市の地下水揚水量	右記を合計	上水道	水道部局の実績揚水量	翌年●月		市提供資料に基づく実績値	
			上水道以外	毎年の取水量報告量	翌年●月		23,465,137 ^{※9} ×毎年の取水量報告量÷16,696,424 ^{※10}	
	E 安曇野市の地下水湧出量	右記を合計	市内起源(A+B-D)	気象庁穂高アメダス観測所年間降水量	翌年1月	-	対象年の年間降水量×0.0054376164 ^{※11}	
			市外起源(C)					
流出総計	上記を合計					D+E		
水収支 (流入-流出)	上記から算出					(A+B+C)-(D+E)		

- ※1 気象庁穂高アメダス観測所における46年間(S45-H27)の平均年間降水量(ただし、S45～S53は松本アメダスの年間降水量から推計した値を用いた)
- ※2 安曇野市内のみを流下する河川(例えば鳥川等)を取水口とする農業用水路の受益面積が安曇野市における受益面積の約30%なのでこの値とした
- ※3 安曇野市外を流下する河川(例えば梓川等)を取水口とする農業用水路の受益面積が安曇野市における受益面積の約70%なのでこの値とした
- ※4 作物統計調査 農林水産関係市町村別統計 各年度 水稲 長野県 インターネット公開情報
- ※5 長野県 水道統計情報 各年度 上水道事業 取水量 年間取水量 地下水(伏流水・浅井戸水・深井戸水・湧水) インターネット公開情報
- ※6 工業統計調査 結果報告書 各年度 市町村別 1日あたり水源別用水量(地下水) インターネット公開情報
- ※7 工業統計調査の1日あたり水源別用水量(地下水)は従業員30人以上の企業を対象とし、その量が過小なので、以下の補正係数を乗じる
大町市:1.00倍、松川村:1.00倍、池田町:1.00倍、松本市:3.07倍、山形村:1.00倍、朝日村:1.00倍、塩尻市:12.58倍
- ※8 平成26年の安曇野市の地下水湧出量(億m³/年)
- ※9 平成25年度地下水採取届出書に基づく上水道以外の安曇野市の平成25年度の地下水揚水量(m³/年)
- ※10 平成26年度地下水採取届出書に基づく10m³/日以上揚水している井戸の平成25年度の地下水揚水量(m³/年)
- ※11 平成20年以降の穂高湧水量観測所の年間総湧出量と気象庁穂高アメダス観測所の年間降水量との相関から求められる補正係数

地下水利用状況(地下水採取量届出書受付結果)

■地下水採取量報告受付結果

(単位:件)

年度	提出依頼	受付(井戸本数)	未届(井戸本数)
H25	257	184	73
H26	179	168	11
H27	173	123	50
H28	286	227	59
H29	322	313	10
H30	321	316	5
R1	398	376	22
R2	303	294	9

■揚水量の推移

年度	年間揚水量(万m ³ /年)
H25	3,663
H26	3,380
H27	3,478
H28	3,724
H29	3,735
H30	3,829
R1	3,823
R2	3,642

※1日10m³未満の届出不要分及び採取量報告 未提出分の見込み量を含む。

■地下水利用状況(R2年度)

項目	事業用	水道用	農業用	養魚用	家庭用	合計
井戸本数(本)	228	31	56	31	500	846
井戸本数(%)	27.0	3.7	6.6	3.7	59.1	
揚水量(m ³ /年)	10,751,684	12,116,988	746,455	12,616,976	192,516	36,424,619
揚水量(%)	29.5	33.3	2.0	34.6	0.5	

【R2年度】

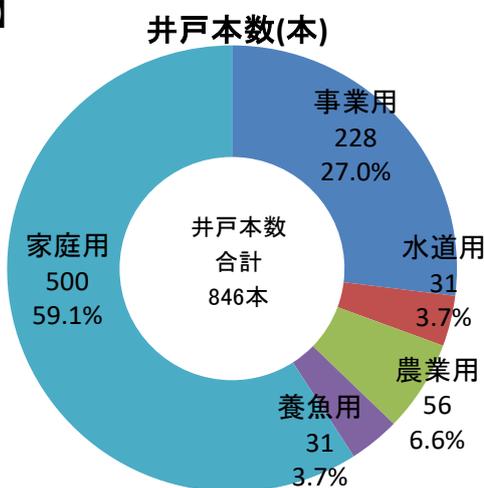


図1 井戸の用途ごとの揚水井戸本数

【R2年度】

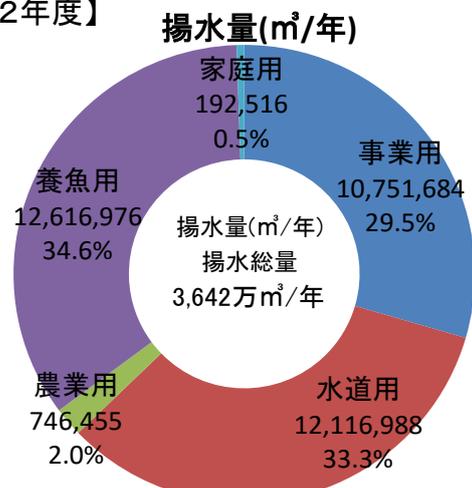
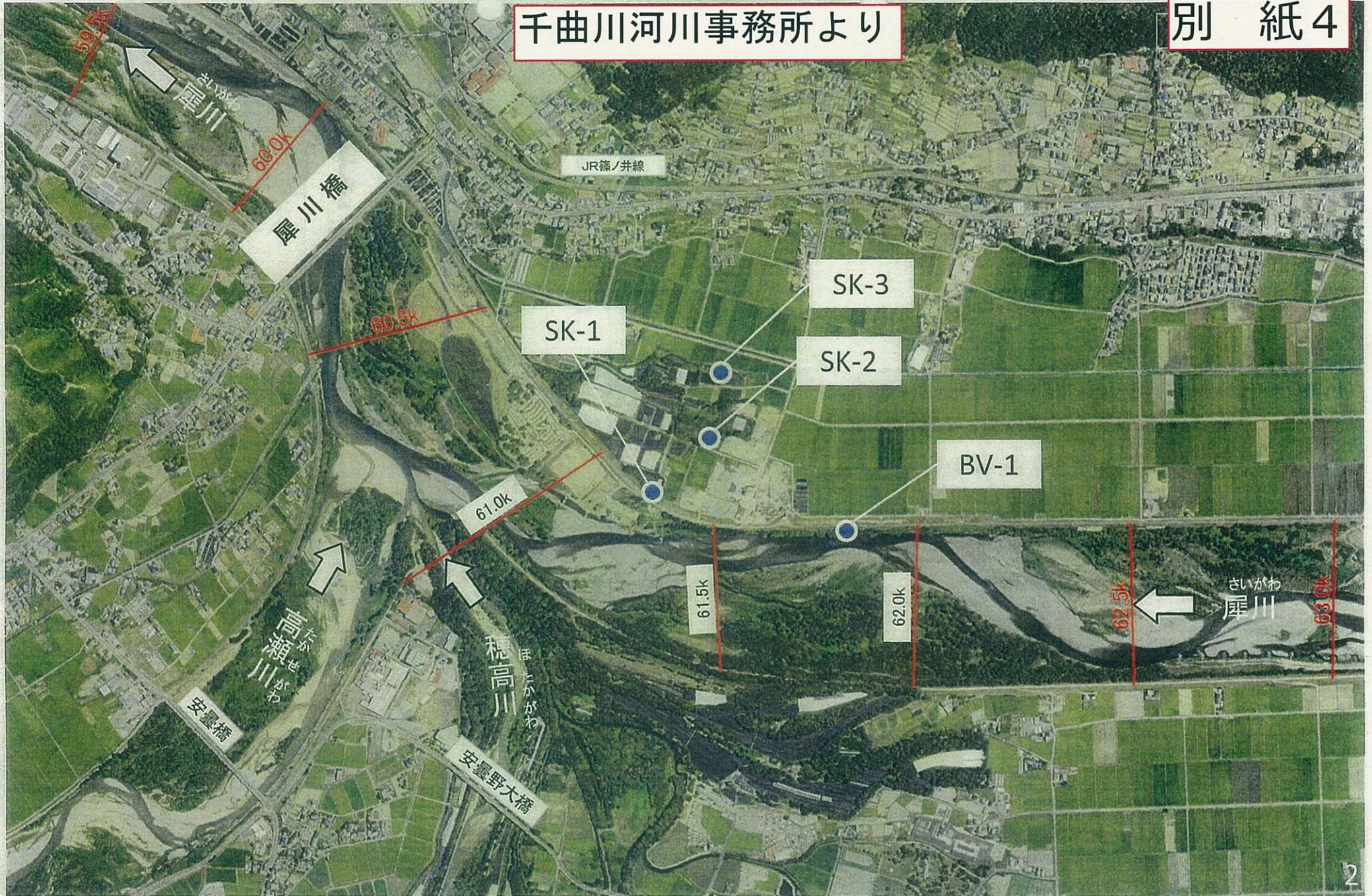
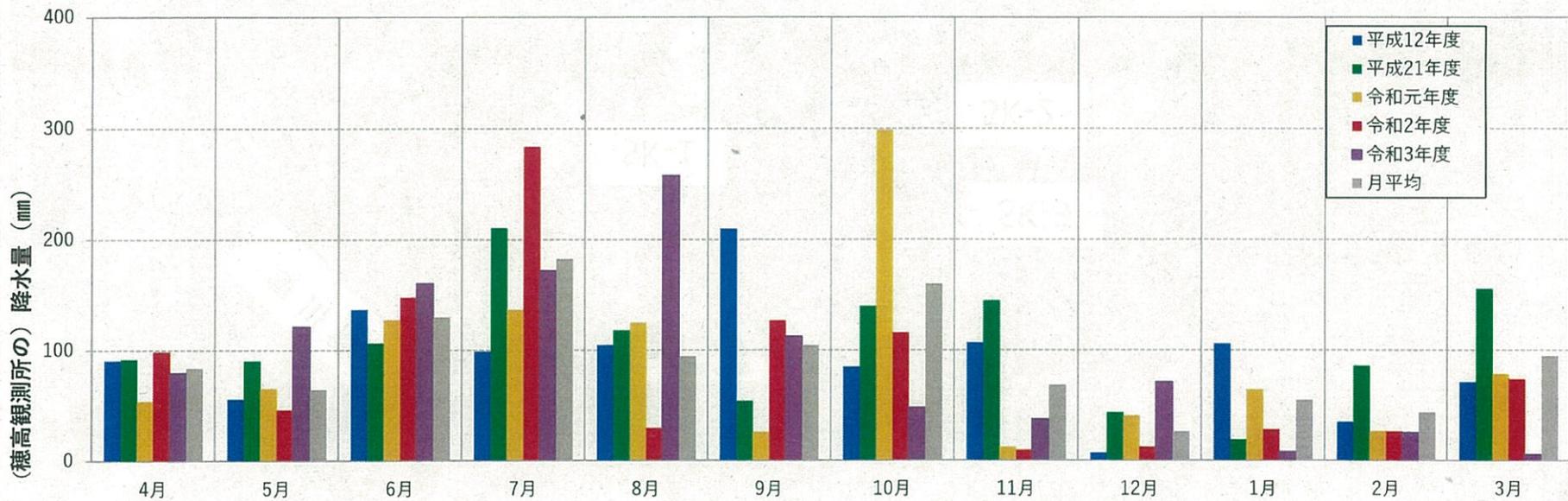
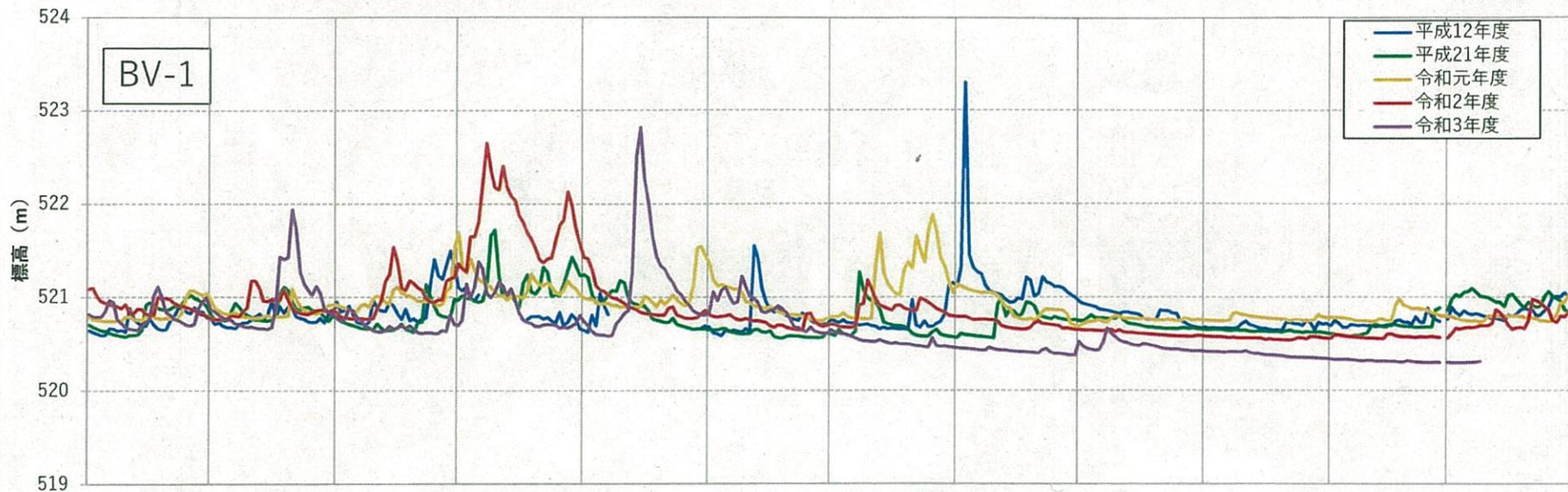


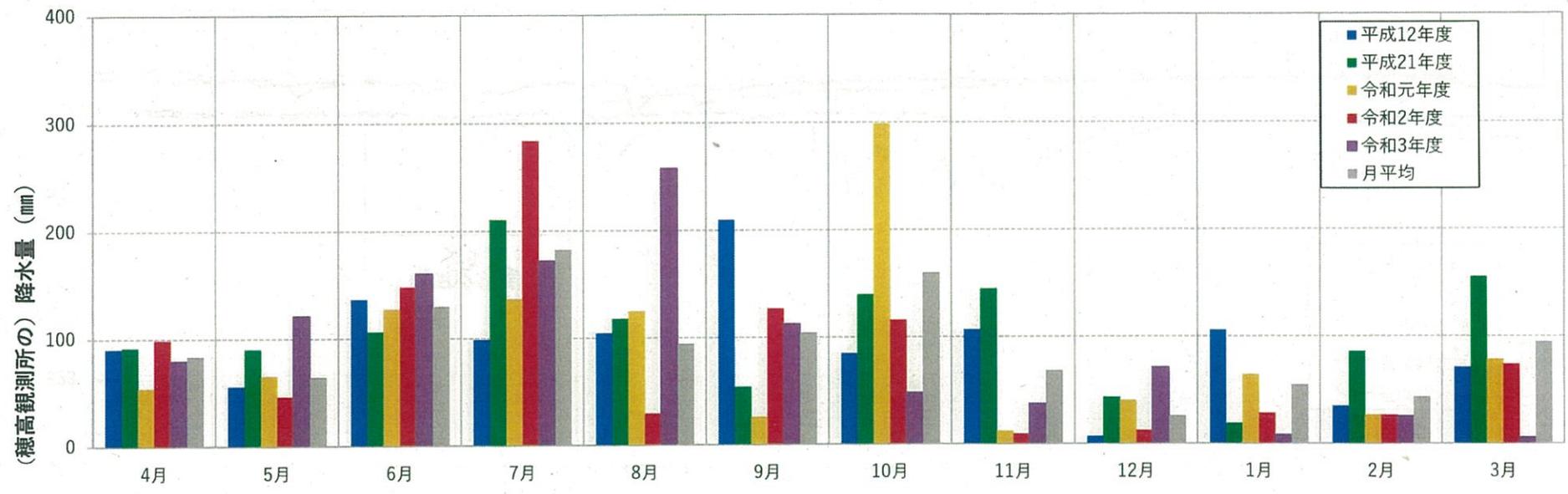
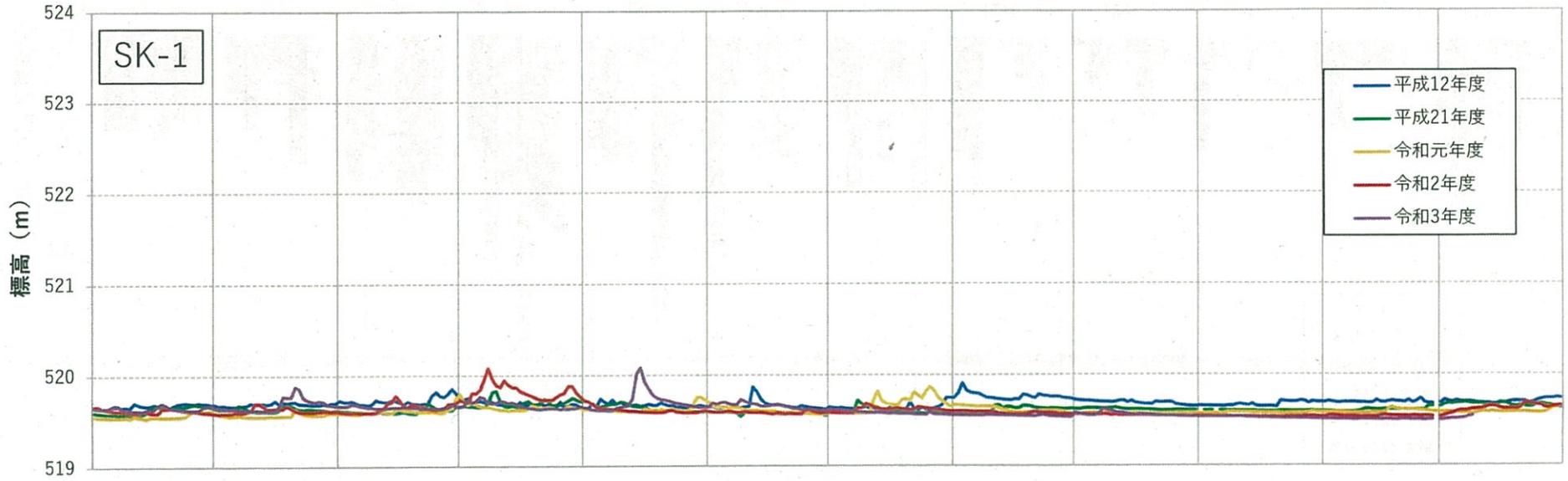
図2 井戸の用途ごとの揚水量

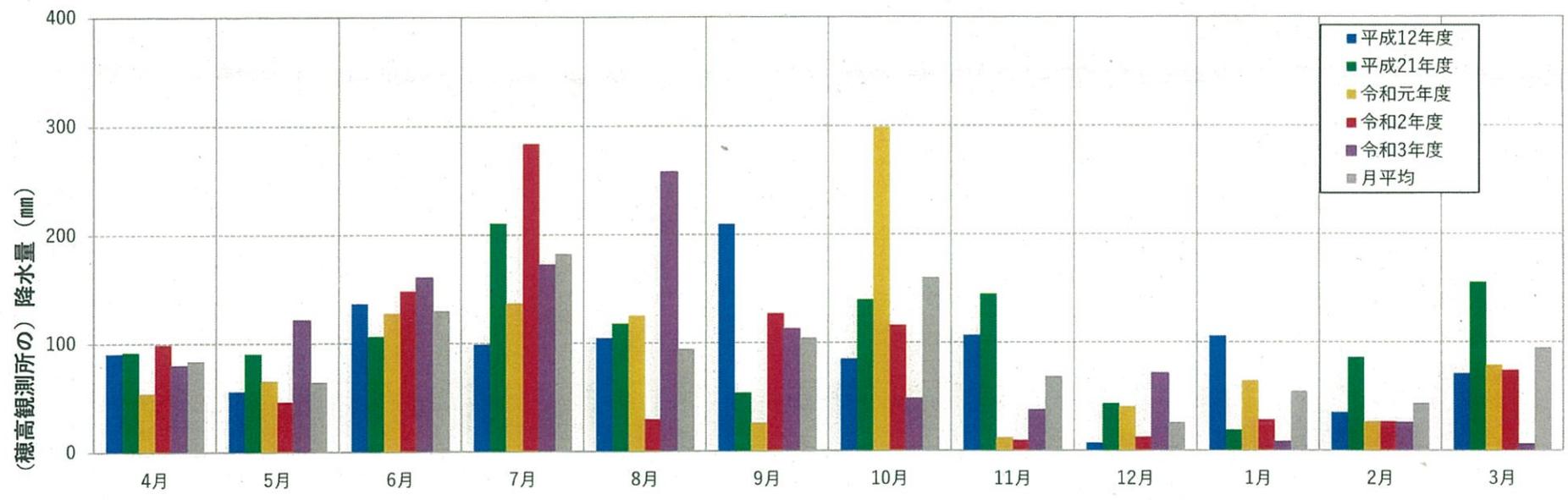
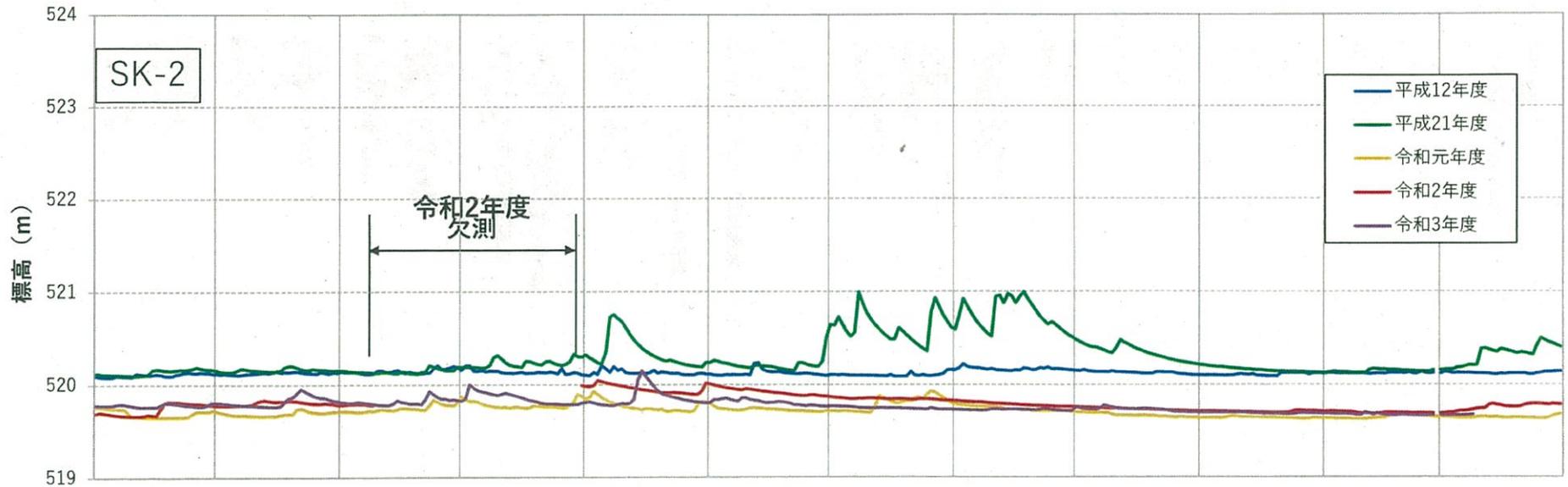
千曲川河川事務所より

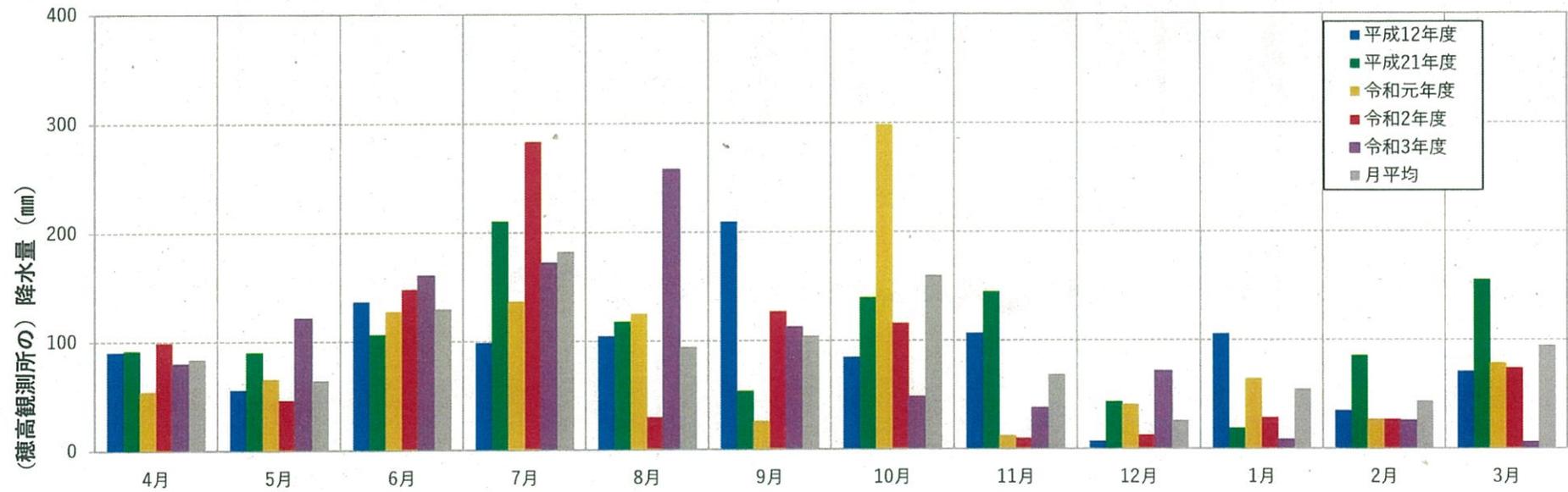
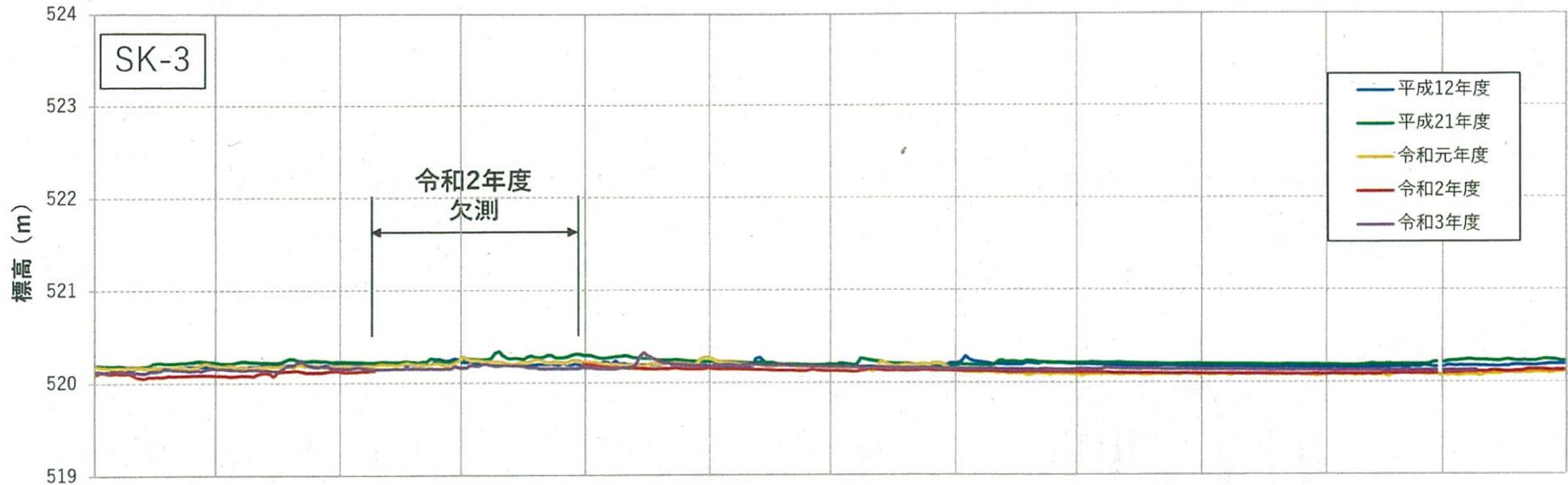
別紙4



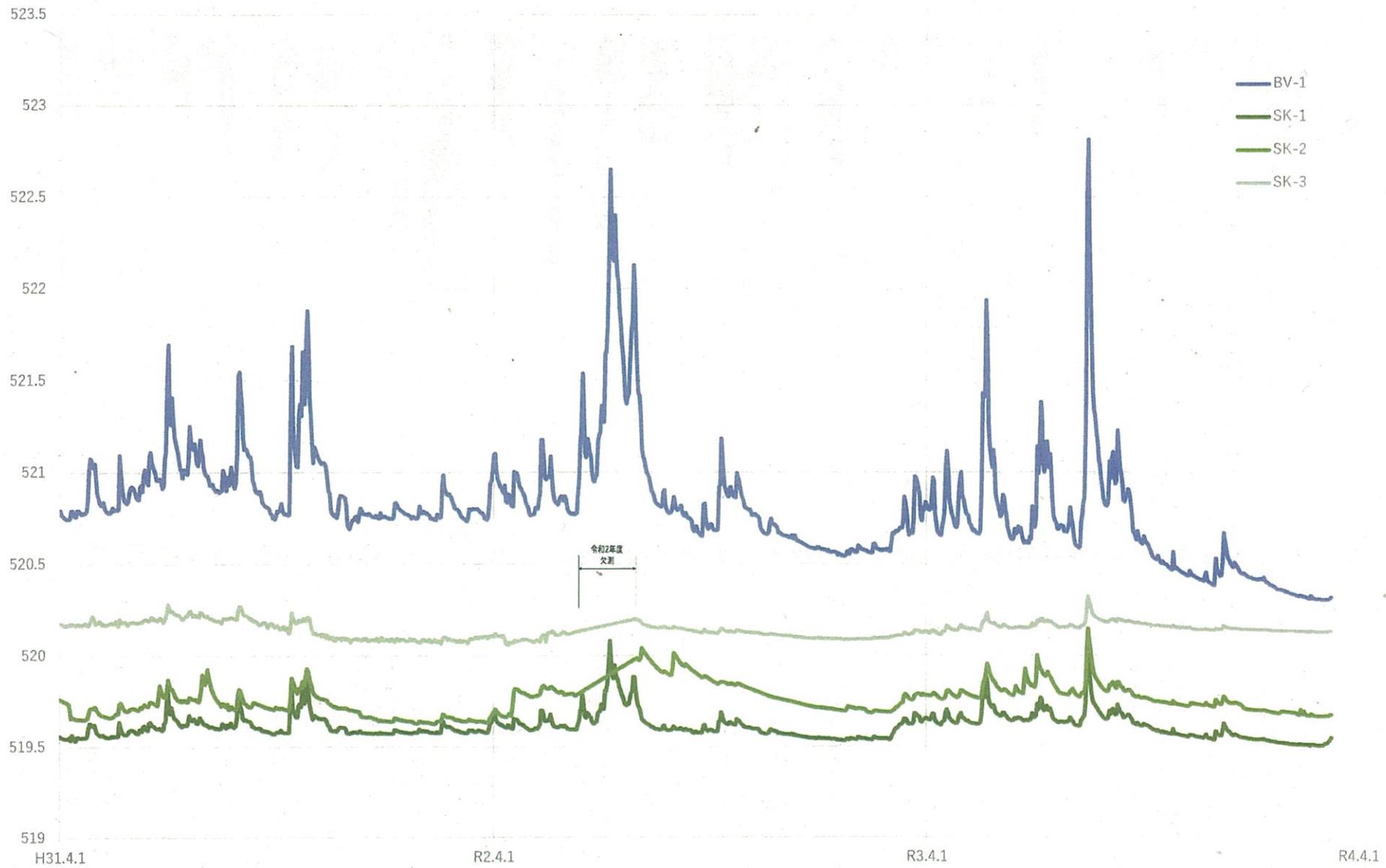


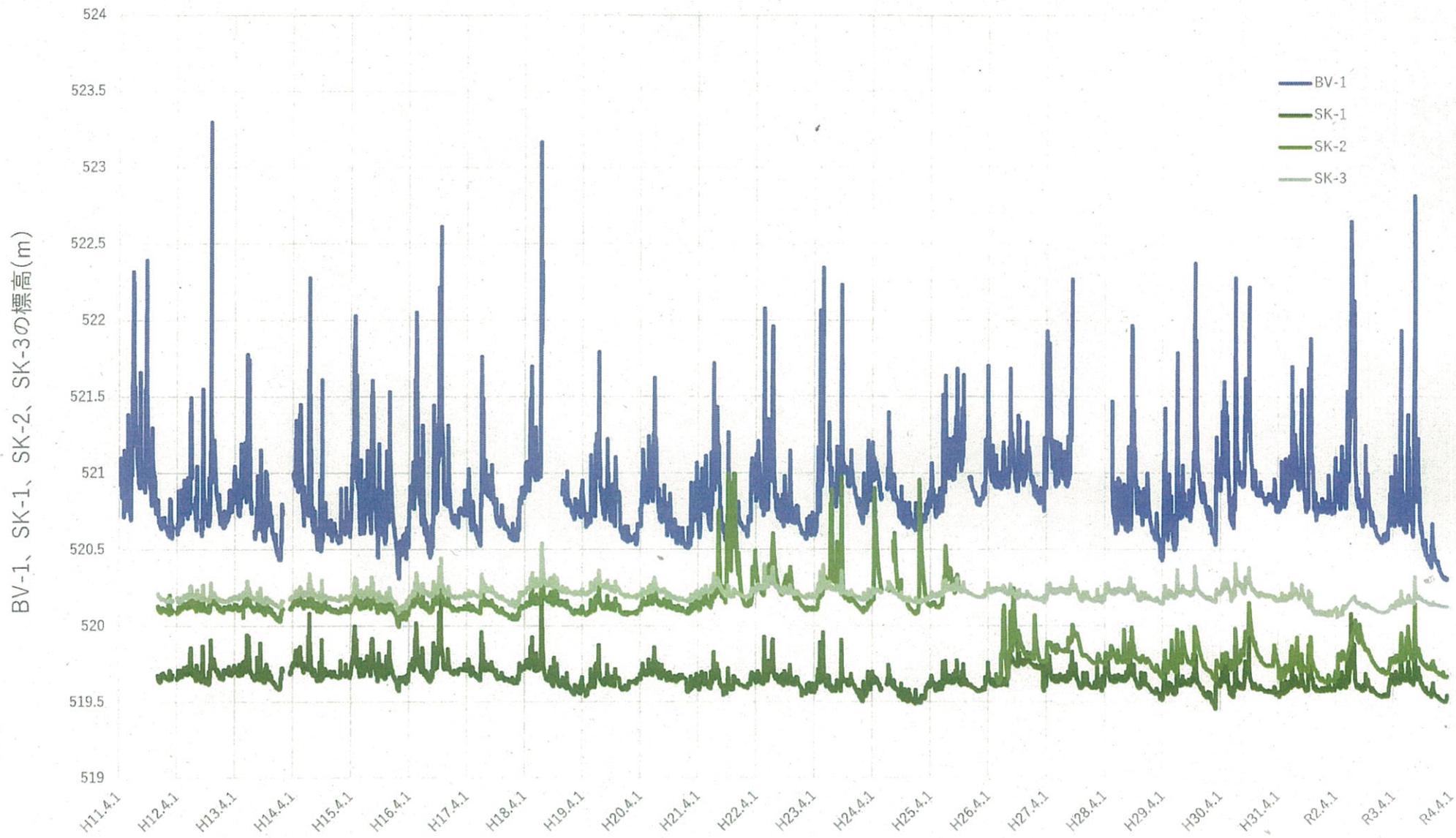






BV-1、SK-1、SK-2、SK-3の標高(m)

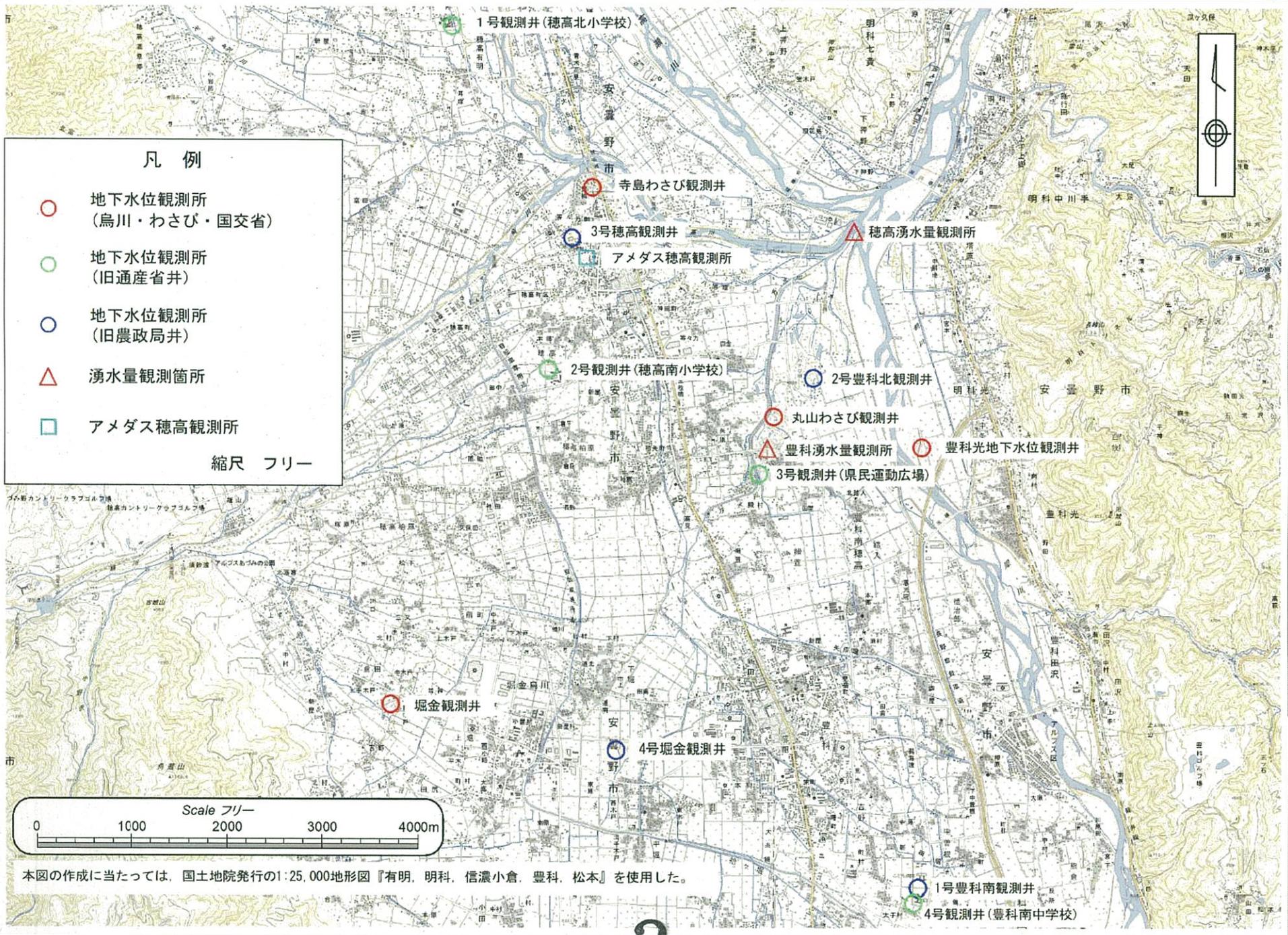




令和3年度 地下水位観測調査

地下水位・湧水連続観測；計14箇所

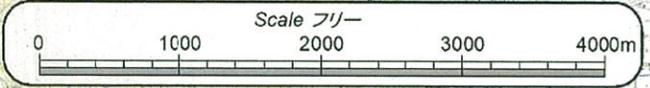
内訳 穂高 3 箇所，豊科 5 箇所，堀金 2 箇所
わさび田 2 箇所，湧水 2 箇所



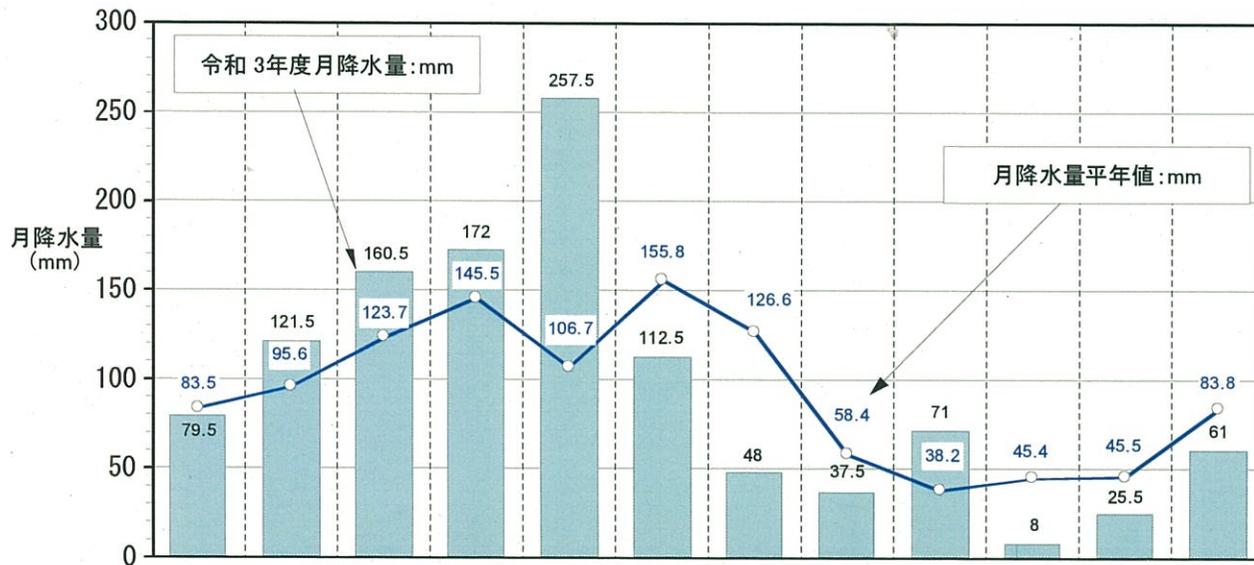
凡例

- 地下水位観測所
(烏川・わさび・国交省)
- 地下水位観測所
(旧通産省井)
- 地下水位観測所
(旧農政局井)
- △ 湧水量観測箇所
- アメダス穂高観測所

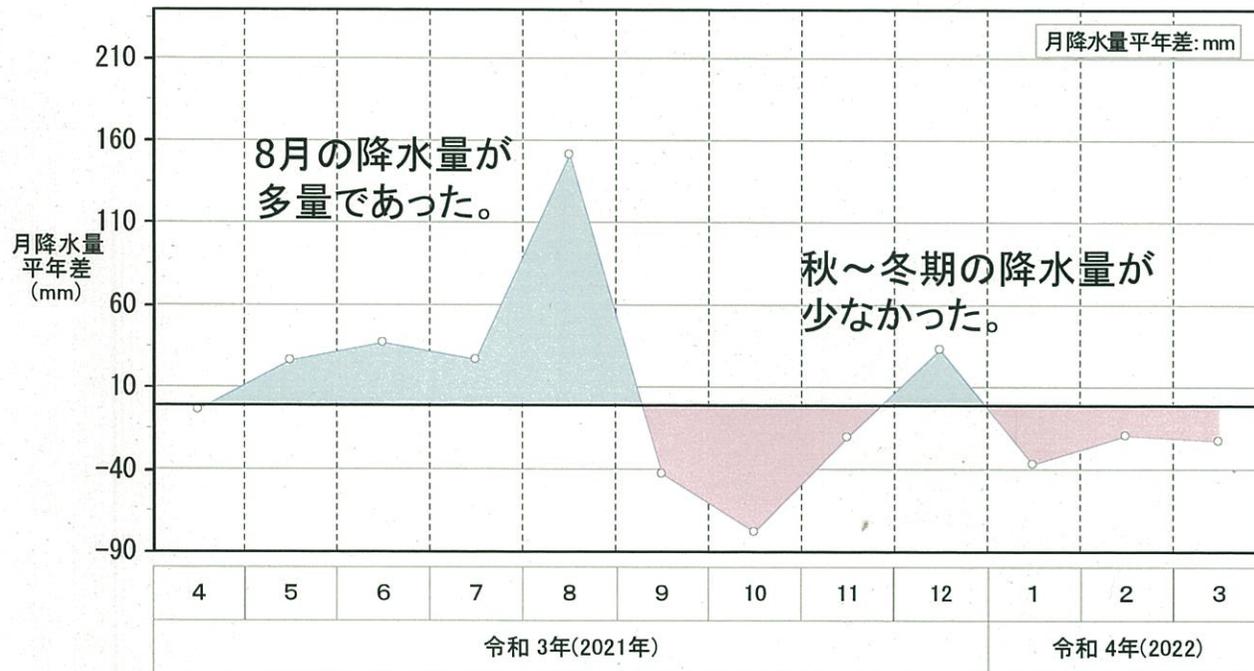
縮尺 フリー



本図の作成に当たっては、国土院発行の1:25,000地形図『有明、明科、信濃小倉、豊科、松本』を使用した。



令和3年度 降水量 1154.5 mm
 平年値 1109.0 mm
 (アメダス穂高)

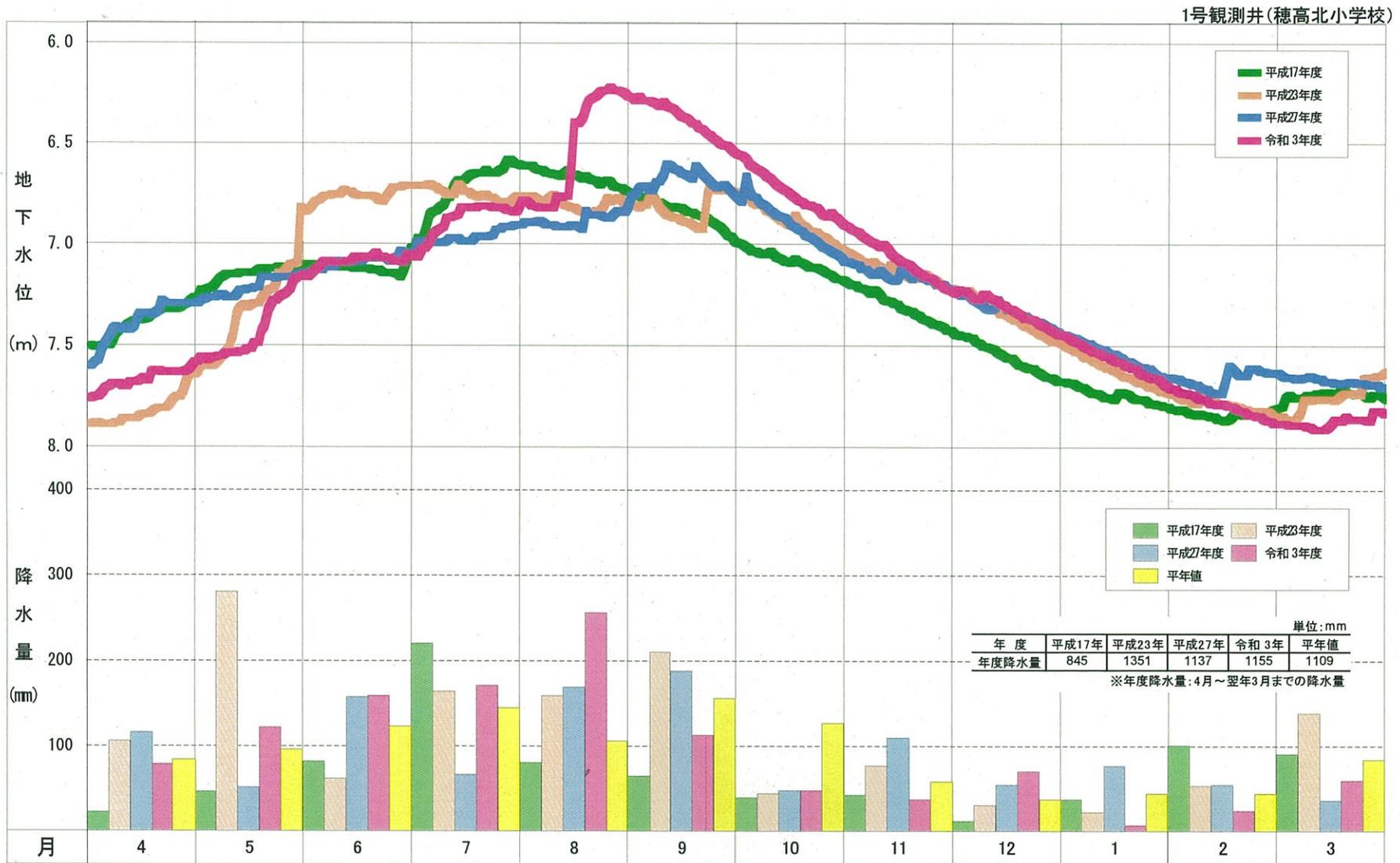


月	降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年差	平年比
4	79.5	83.5	-4.0	95%
5	121.5	95.6	25.9	127%
6	160.5	123.7	36.8	130%
7	172.0	145.5	26.5	118%
8	257.5	106.7	150.8	241%
9	112.5	155.8	-43.3	72%
10	48.0	126.6	-78.6	38%
11	37.5	58.4	-20.9	64%
12	71.0	38.2	32.8	186%
1	8.0	45.4	-37.4	18%
2	25.5	45.5	-20.0	56%
3	61.0	83.8	-22.8	73%
計	1154.5	1109.0	45.5	104%

※平年値は地域気象観測所(アメダス)穂高の1991～2020までの統計値である。

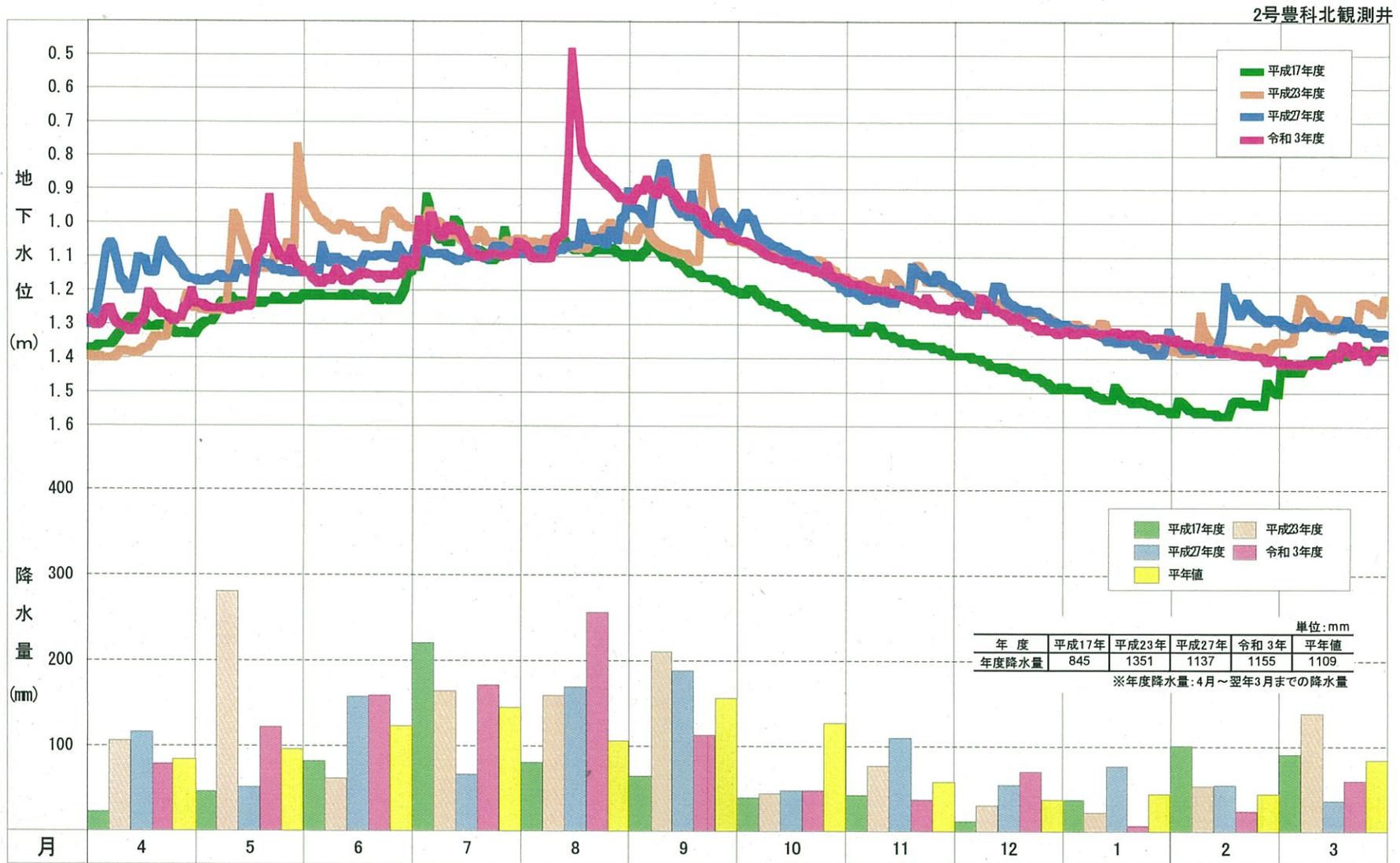
月別降水量平年比較図

旧通産省1号観測井(穂高北小学校)



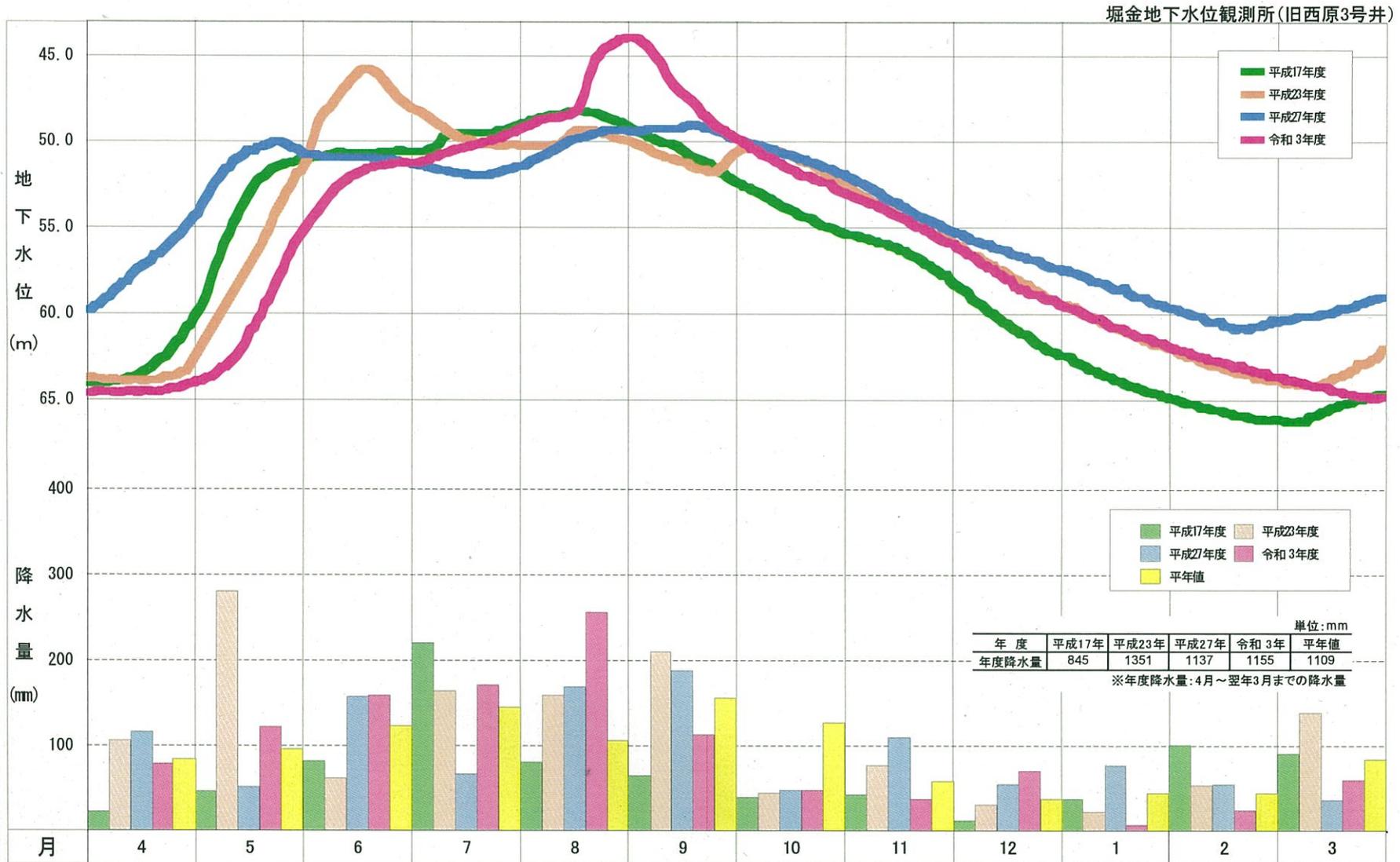
日別観測記録比較図

旧農政局2号観測井(豊科北観測井)



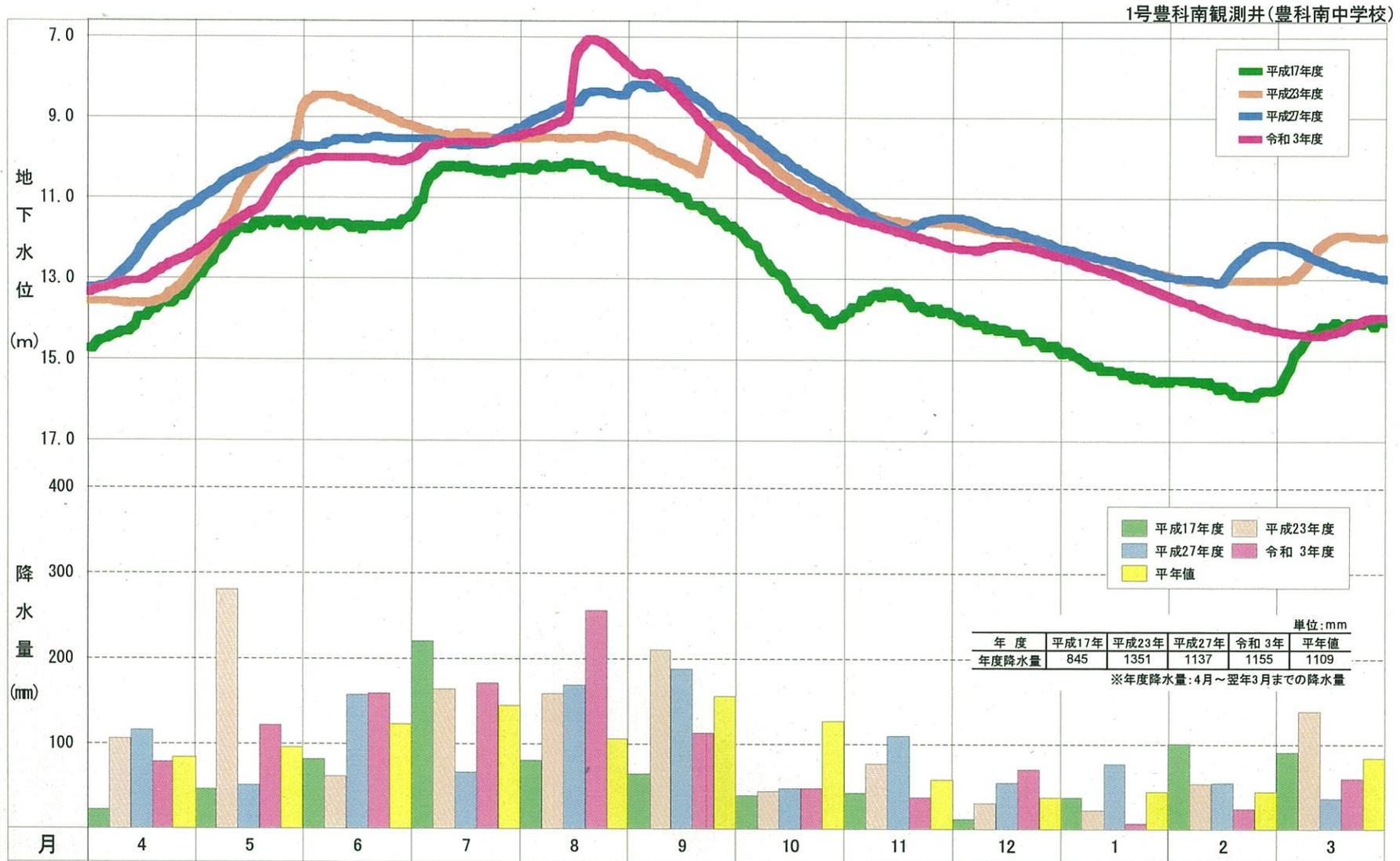
日別観測記録比較図

堀金地下水位観測所(旧西原3号井)



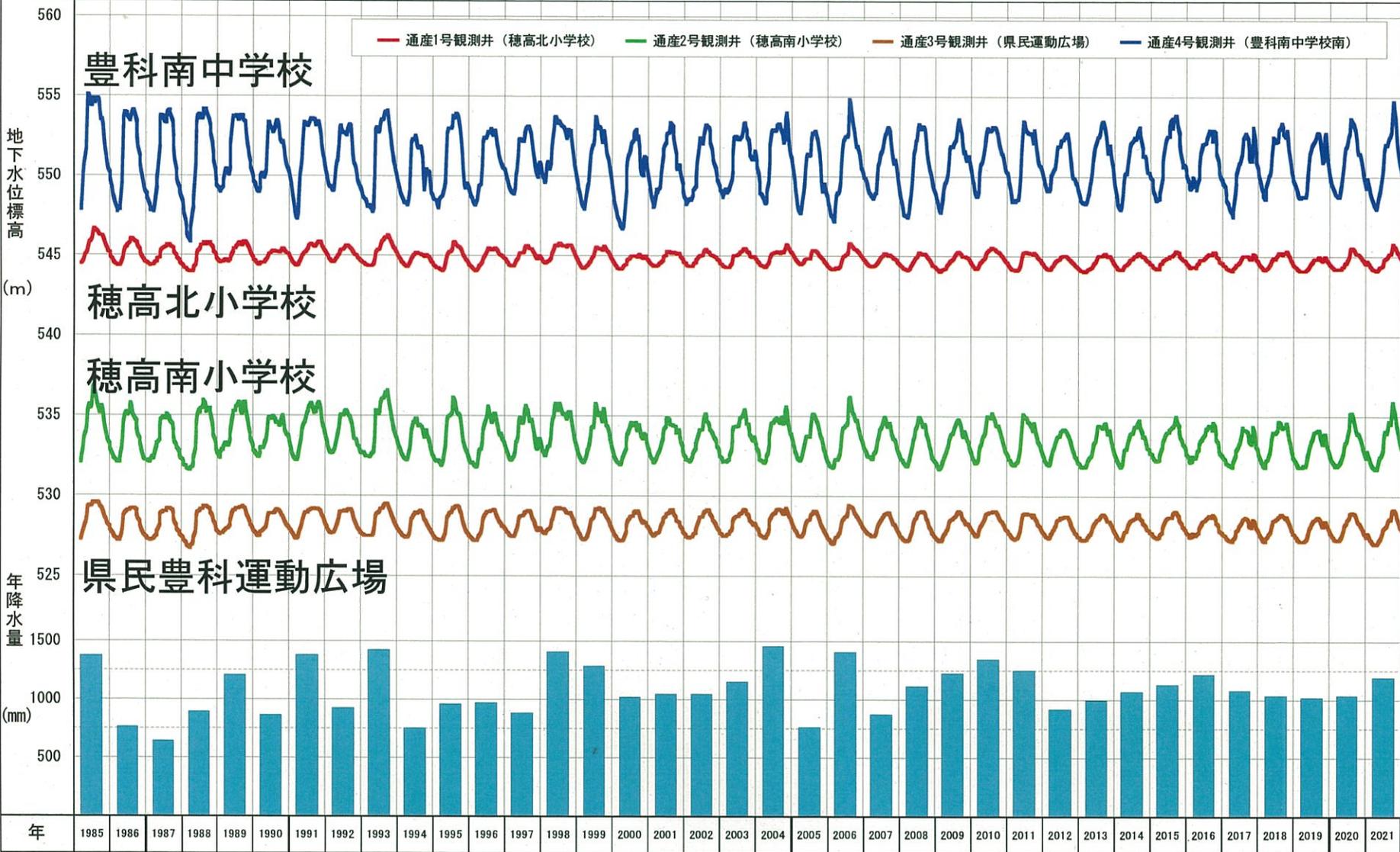
日別観測記録比較図

旧農政局1号観測井(豊科南中学校)

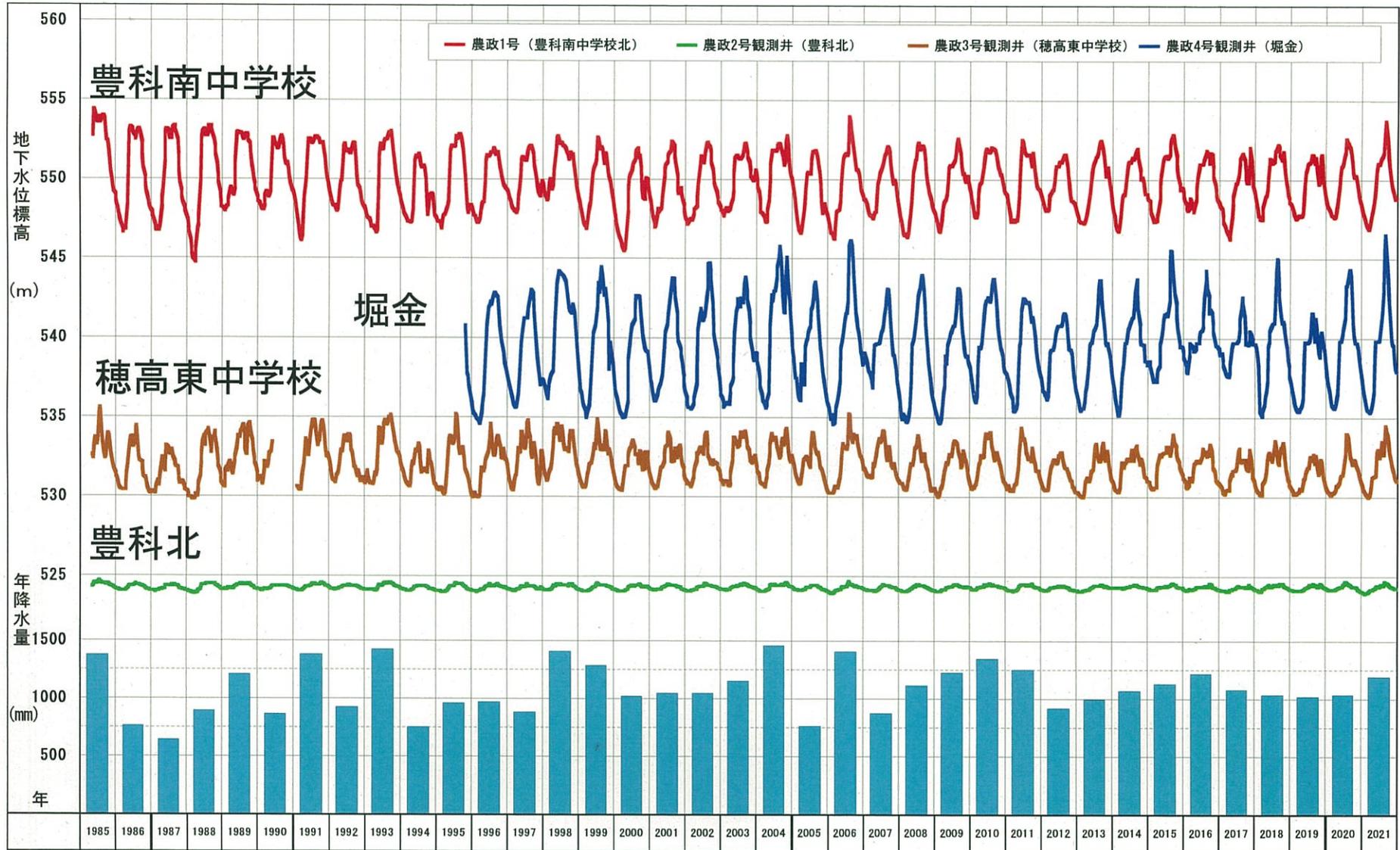


日別観測記録比較図

旧通産省観測井

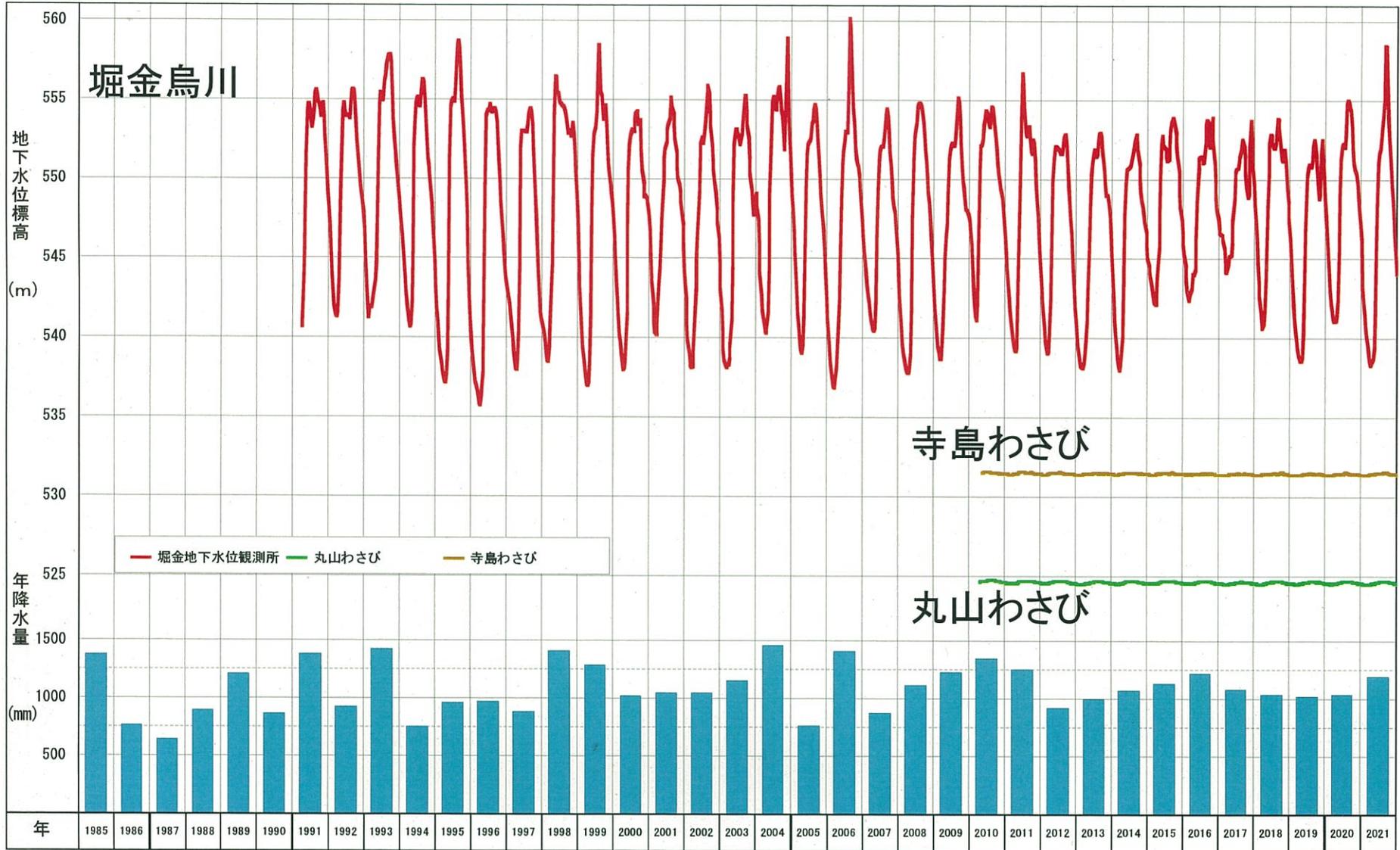


旧農水省観測井



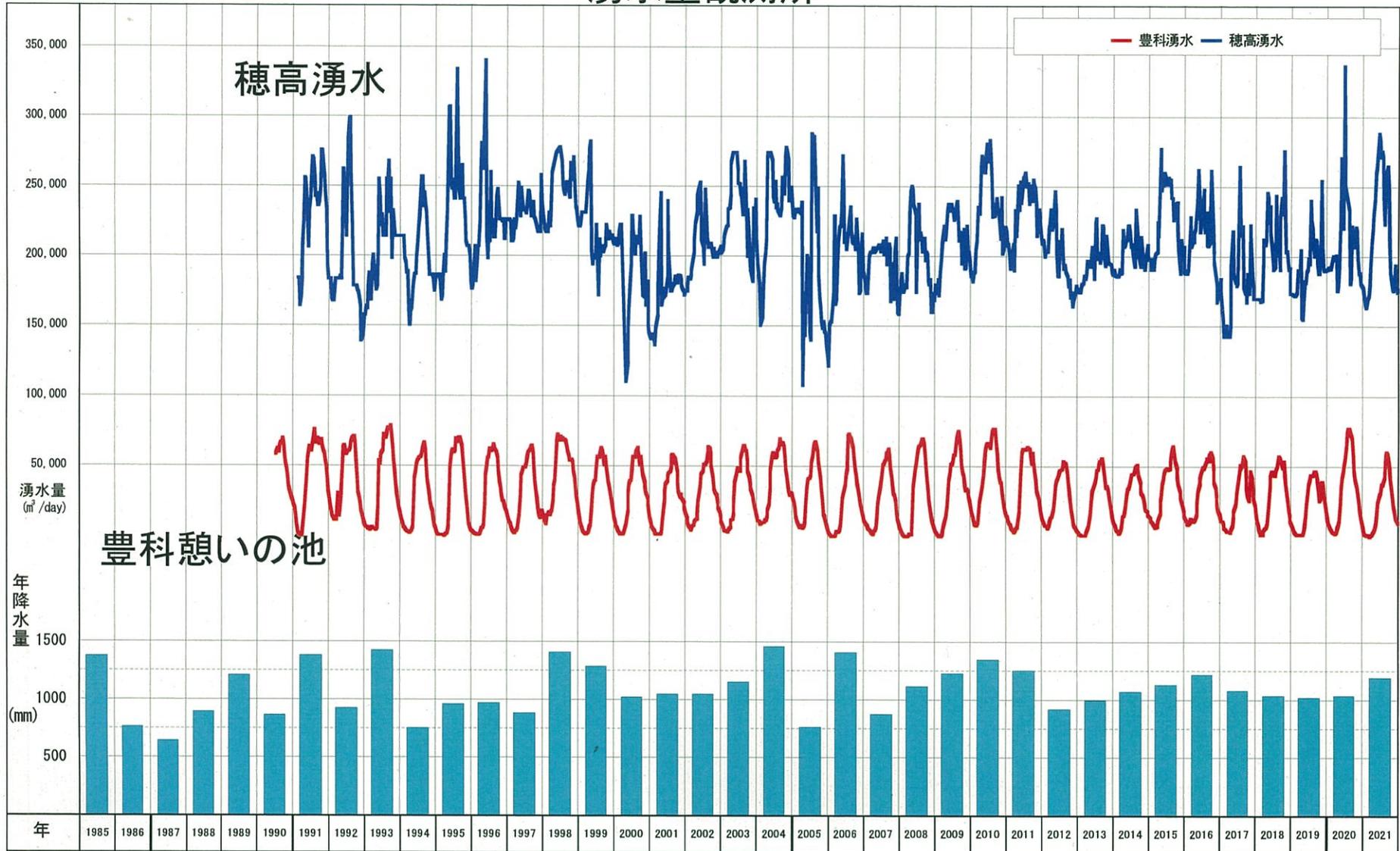
旬別経年比較図(2)

烏川土地改・わさび

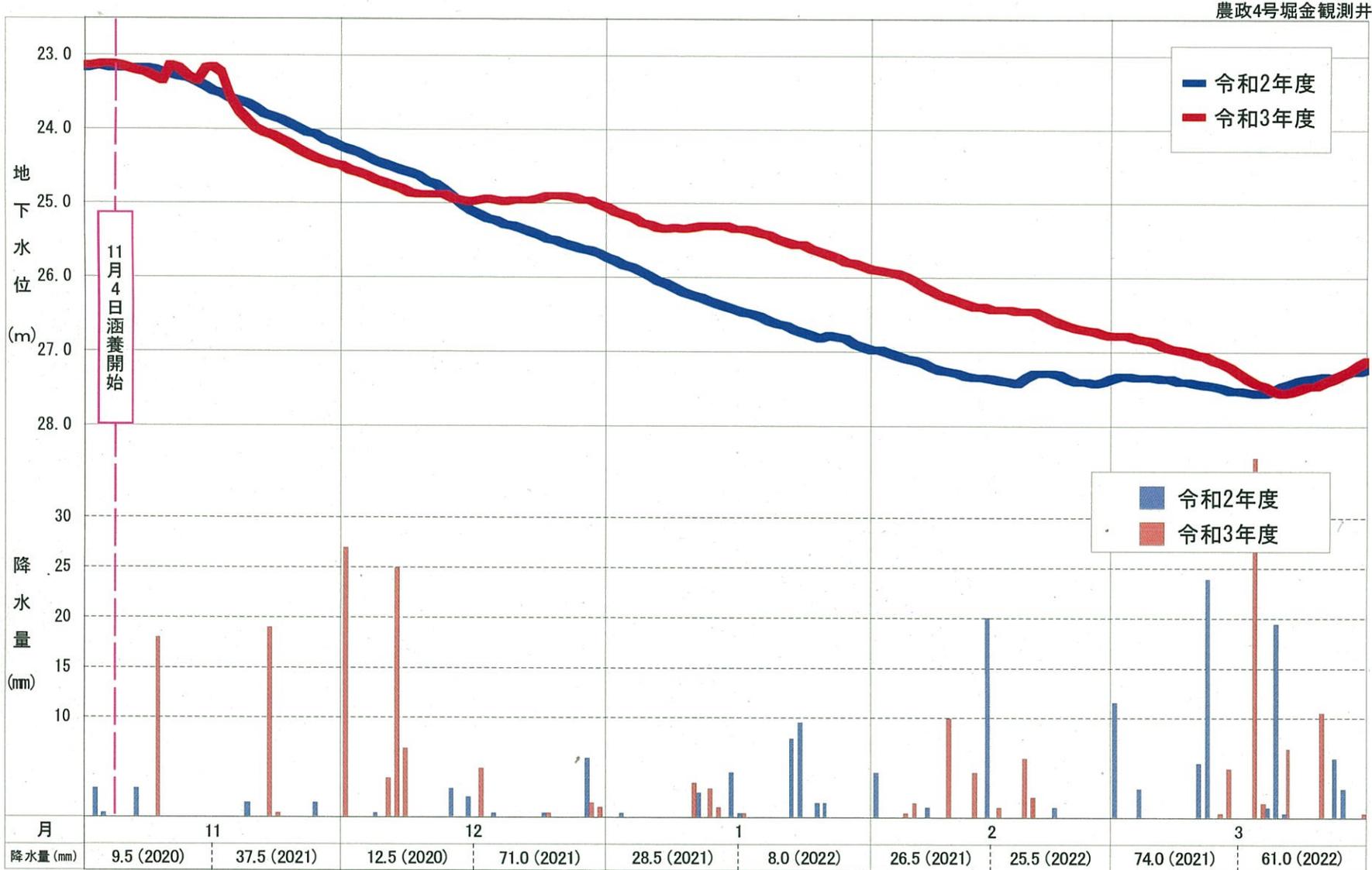


旬別経年比較図(3)

湧水量観測所



旧農政局4号観測井(涵養開始以降)



令和3年度総括

- 降水量は春～夏にかけて平年を上回り8月に平年の2.5倍であったが、秋口以降は、12月を除き、例年の18%～73%と少ない降水量の月が多かった。
- 本年度の地下水位の最高値は、8月のお盆の時期の連続降雨により8月の中旬ごろに例年より高い水位で観測された。最低値は1月以降の降水量が少なかったため、3月の中旬ごろに例年より低い水位で観測された。
- 湧水量はほぼ例年なみであり、令和2年度に観測された豊科湧水観測施設での枯渇は認められなかった。
- 経年の水位変動は、10年前頃から横這いにあるが、最高水位が以前より低い傾向である（今年度は高い）。
- 地域別では、市内北部（穂高）では水位が低下傾向が認められ、市内南部（豊科南部・堀金）は、ほぼ横這い傾向である。

あづみの水結（みずゆい）登録制度実施要綱

（目的）

第1条 この要綱は、あづみの水結（みずゆい）として登録し、その活動に係る情報発信を行うことで、異業種・異分野同士の交流を促し、水を守る活動の輪を広げ、もって健全な地下水環境の創出に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) あづみの水結（みずゆい） 市内で水、水文化等を守り、水の魅力を発信する個人又は団体として市長が認めるものをいう。
- (2) あづみの水結（みずゆい）活動 あづみの水結（みずゆい）が行う次に掲げる活動をいう。
 - ア 地下水保全等を目的とした森林整備又は自主的な涵養活動
 - イ 地下水の再涵養に係る活動
 - ウ 市内湧水地における清掃活動
 - エ 地下水、湧水等のPR活動
 - オ その他市長が適当と認めた活動

（登録の条件）

第3条 あづみの水結（みずゆい）に登録できるものは、次に掲げる要件を全て満たす18歳以上の個人、法人その他団体等とする。

- (1) あづみの水結（みずゆい）活動が無償で行うことができるもの
- (2) あづみの水結（みずゆい）登録後は、登録者間で連携し、活動の輪を広げる取組に携わることのできるもの
- (3) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号及び第6号に規定する暴力団及び暴力団員でないもの

（登録方法等）

第4条 あづみ野水結（みずゆい）に登録を希望するものは、あづみの水結（みずゆい）登録申込書（様式第1号。以下「申込書」という。）を市長に提出するものとする。

2 市長は、前項の規定により提出された申込書の内容を審査し、前条に規定された登録の条件を満たすと認めたときは、あづみの水結（みずゆい）に登録し、登録事項を登録台帳に整理保管するとともに、あづみの水結（みずゆい）登録証（様式第2号）を交付するものとする。

（提供用名簿の作成等）

第5条 市長は、前条の規定により提出された申込書に基づき、あづみの水結（みずゆい）の登録者間で情報共有を図るために使用する提供用名簿を作成し、あづみの水結（みずゆい）登録者に提供するものとする。

（登録事項の訂正等）

第6条 登録者は、登録事項について訂正等を希望するときは、書面により、市長にその旨を申し出ることができる。

（登録の取消し）

第7条 市長は、登録者が次の各号のいずれかに該当するときは、当該登録者の登録を取り消すことが

できる。

- (1) 登録者から申出があったとき。
 - (2) 申込み内容に虚偽があったとき。
 - (3) 登録者が、社会的信用を失墜するような行為をしたとき。
 - (4) 前各号に定めるもののほか、市長が不相当と認めたとき。
- 2 前項の規定により、登録を取り消された登録者は、あづみの水結（みずゆい）登録証を市長に返却するものとする。
- （その他）

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、令和4年4月1日から施行する。

あづみの水結（みずゆい）登録証

様

あづみの水結（みずゆい）に認定します

活動内容

年 月 日

安曇野市長



安曇野の水と人をつなげるネットワーク

みずゆい

あづみの水結登録制度



令和4年4月

安曇野市

◆ 制度の背景

「安曇野市民憲章」の冒頭に「自然を愛し、水と緑豊かなまちをつくります」が位置付けられているように、美しい田園風景や清冽な湧水は安曇野の原風景であり、安曇野の暮らしは、文字どおり豊かな水環境と一体のものであります。

一方、安曇野の原風景の一つである湧水は、かつてに比べてその量が減少したとの指摘があり、市内の地下水賦存量を調査では、昭和 61 年から令和 2 年までの 34 年間で 1 億 1,710 万 m³（1 年あたり 344 万 m³）が減少していることが分かりました。（図 1）

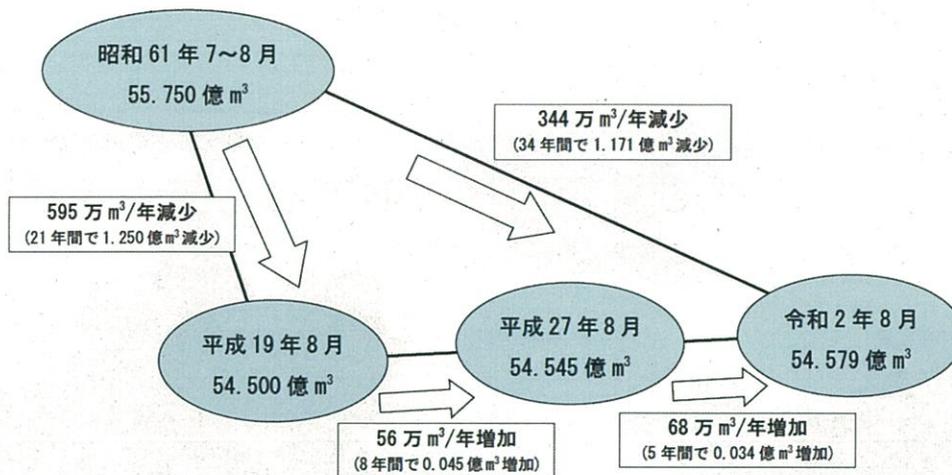


図 1 安曇野市における豊水期の地下水賦存量の変化

このような中、地下水問題の発生を未然に防ぎ、健全な地下水環境を創出することを旨として策定した「安曇野市地下水資源強化・活用指針」では、以下に示す 3 箇条を「基本理念（安曇野ルール）」として定めています。

＜基本理念（安曇野ルール）＞

1. 地下水は市民共有の財産である。
2. 全市民が地下水保全・強化に努め、健全な地下水環境を創出する。
3. 地下水資源を活用し、豊かな安曇野を次世代に引き継ぐ。

◆ あづみの水結制度とは？

安曇野には、自主的に農地湛水を行う農家、観光客等に水（地下水・湧水など）の魅力をもっとPRする水案内人など、水や水文化を守り、水の魅力をPRする方々がたくさんおられます。

こうした安曇野市民憲章にある「自然を愛し、水と緑豊かなまちをつくります」に添った活動をしている市民等を掘り起こし“あづみの水結”の愛称で市が登録し、活動情報発信を行う制度です。また、異業種・異分野同士の交流を促し、水を守る活動の輪を広げ、安曇野の水（地下水・湧水など）の魅力を市内外に発信するものです。

◆ あづみ^{みずゆい}の水結には、どんな人がなれるの？

水を守る活動や水の魅力PRの活動ができる人、団体、企業なら参加できます。また、あづみ^{みずゆい}の水結に加入後は、他の水結の方々と“水の輪”を広げる活動を行える方です。

その他の例としては

- ・安曇野の水（地下水・湧水）の研究者
- ・水文化や名所などを案内ができる人
- ・市外の方で、安曇野の水をPRできる人
- ・安曇野の水（地下水・湧水）を料理などに利用し、水の素晴らしさを伝える人
- ・SNSなどを活用して安曇野の水（地下水・湧水）の情報を発信ができる人
- ・この他にも、安曇野の水を守る・生かす活動を行っている人

◆ あづみ^{みずゆい}の水結では、どんな活動を行えばいいの？

- ①「水結」の活動は、自分にできる範囲で活動を行ってください（今まで行っていた活動など）。自分の得意分野、自分のペースで結構です。活動はボランティアで無償です。例えば、
 - ・市内で水環境ツアーを実施し、湧水地等の清掃活動をする（した）
 - ・地域の水祭りを実施し、地下水・湧水をPRする（した）
 - ・自主的に、地下水保全のため涵養をする（した）
 - ・農業で、地下水・湧水に影響しないよう農薬使用量を減量する（した）
 - ・〇〇〇会社で、地下水の再涵養に取り組み、地下水保全をする（した）
 - ・〇〇〇会社で、森林づくり等を通して地下水保全をする（した）
 - ・安曇野の湧水を使った飲食店で、地下水・湧水保全をPRする（した）
 - ・飲食店「〇〇」で、あづみ^{みずゆい}の地下水・湧水を利用し料理を提供する（した）
 - ・名水を活かした特産品を開発し、地下水・湧水保全をPRする（した）
 - ・水に関連した観光名所や水文化をPR、案内する（した）
- ②活動する（した）内容を、市に情報提供してください。提供方法は、FAXやメール、電話などでその都度ご連絡をお願いします。

①、②の2つが、主な活動内容となります。



◆ あづみ^{みずゆい}の水結に加入すると、どんなメリットがあるの？

- ・あづみ^{みずゆい}の水結に登録している人・団体の人材情報や活動情報が届く。
- ・あづみ^{みずゆい}の水結に登録している人・団体・企業と交流や情報交換ができる。

①あづみの水結^{みずゆい}登録申込書（様式第1号）に必要事項を記入のうえ、市民生活部環境課に提出する。



②市から登録証（様式第2号）の交付

その他、あづみの水結^{みずゆい}制度に関して、詳細なことをお知りになりたい方は、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

お問い合わせ・お申し込み先

安曇野市 市民生活部 環境課 環境政策担当

〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地

電話 0263 - 71 - 2492 FAX0263 - 72 - 3176

電子メール：kankyou@city.azumino.nagano.jp